愛は食卓にある。
kewpie

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。







サステナビリティ基本方針 ›

推進体制 ›

重点課題 ›

サステナビリティ目標 ›

サステナビリティ活動



食と健康への貢献

- 健康寿命延伸への貢献
- 子どもの心と体の健康支援



地球環境への貢献

- 食品ロスの削減・有効活用
- プラスチックの削減・再利用
- 水資源の持続的利用
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全



持続可能な調達

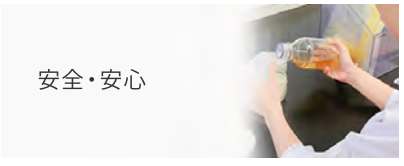
- 持続可能な調達の推進



人権の尊重

- 人権尊重への取り組み
- 多様な人材の活躍
- 健康経営・労働安全衛生

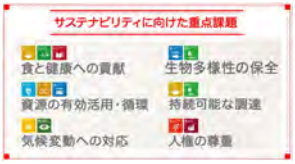




キーワードから見る取り組み

再生可能エネルギー　循環型経済　サプライチェーン
食を通じた社会貢献　健康　ユニバーサルデザイン
コンプライアンス　ダイバーシティ

キユーピーグループ オフィシャルブログ



2023/05/30　環境　社会

サステナビリティサイト更新しました

こんにちは。　キユーピー株式会社　サステナビリティ...



2023/05/29　社会　食育

皆で歩いて社会貢献！「ＷＦＰウォーク・ザ・ワールド２０２３ 横浜（みなとみらい）」に参加

こんにちは。　キユーピー株式会社　広報・グループコ...



2023/05/26　食育　社会

一般のお客様向けに初開催！パパのための離乳食教室 @マヨテラス

こんにちは。　キユーピー株式会社　研究開発本部育児...



2023/05/17　環境　社会

兒の森で山歩き！山遊び！

こんにちは。　キユーピー株式会社　挙母工場（愛知県...

更新情報

› 一覧を見る

2023/05/30
› サステナビリティページを年次更新しました

2023/04/13
› 「『適塩』を心がけよう！」サイトを公開しました

2023/04/13
› 「よく噛むことを心がけよう！」サイトを公開しました

2023/01/10
› TCFD報告書2022を公開しました

2023/01/10
› 生物多様性方針を策定しました

ニュースリリース

› 一覧を見る

2023/05/30　No.42
› 「サステナビリティサイト」を更新 SASB※対照表、外部イニシアチブへの署名・参画一覧を新設

2023/04/27　No.39
› 一般向けに「パパのための離乳食教室」を初開催

2023/04/13　No.35
› 厚生労働省「食環境戦略イニシアチブ」に参画 マヨネーズやドレッシングを活用した「適塩」レシピの提供で野菜摂取量の向上に貢献

2023/03/27　No.31
› 「健康経営優良法人2023」の認定を受けました

2023/03/27　No.30
› サラダに卵をプラスすれば、見栄えよく、栄養バランスがより整う「サラダと目玉焼きで作る『食べるアート』で食事を楽しもう！」

サステナビリティ情報

開示方針 ›

各種報告書 ›

対照表 ›

ESGデータ集 ›

社外からの評価 ›

各種方針 ›

イニシアチブ・
加盟団体 ›

社会・環境活動の歴史 ›

キユーピーグループ
オフィシャルブログ ›

グループ各社の
サステナビリティ活動 ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

トップメッセージ



キユーピーグループは、サステナビリティという概念ができる以前から創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という考えのもと、社会課題の解決に取り組んできました。現在は「めざす姿」「2030ビジョン」を将来のありたい姿とし、2021-2024年度中期経営計画では、「持続的な成長を実現する体質への転換」をテーマに、社会・地球環境への取り組みを強化することを掲げています。

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針のもと、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を参考に重点課題を特定し、グループ一丸となり取り組みを推進しています。2022年度は、サステナビリティ基本方針に「生物多様性の保全」を追加、内容を一部変更し、6つのサステナビリティに向けた重点課題としました。

国内の外食需要の回復、北米・東南アジアを中心とした海外の伸長が2022年度の売上増に寄与しましたが、2023年度の事業を取り巻く環境は、不安定な国際情勢に起因する主原料およびエネルギー・原資材の高騰や急激な円安による為替の影響に加えて、鳥インフルエンザの拡大による鶏卵相場の高騰など2023年度も厳しい経営環境が続くことが予想されます。今後も先の見えない状況ですが、私たちは下記の3つに注力し、事業活動を進めていきます。

・サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、人々の健康課題に向き合い健康寿命延伸に貢献すること
・おいしさと日持ちを両立させる技術を磨いて持続可能な社会の実現に貢献すること
・グローバル企業をめざして世界の食と健康に貢献すること

「日持ち」については、製法や容器包装の改良により賞味期間を延長することで、各バリューチェーンにおける食品ロスを削減することが期待できます。

このように社会・環境課題解決に取り組んでいくことは、未来に向けた必要な投資であると捉え、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって課題解決に取り組みます。そして、商品の設計、調達から生産、販売、消費までのバリューチェーン全体を通じて人と環境を思いやり、笑顔の溢れる未来を創るキユーピーグループにしていきます。

› サステナビリティ目標

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
  - 重点課題と推進体制
  - ステークホルダーとの対話
  - 社外からの評価
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

サステナビリティマネジメント

キユーピーグループは、社会の持続可能性向上への貢献と企業の持続的な成長のために、「サステナビリティの基本方針」を定めています。
特定した「サステナビリティに向けての重点課題」を、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を中心に各テーマの分科会やプロジェクトと連携して取り組んでいます。
また、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様との対話を積極的に行っていきます。
私たちは、さまざまなステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決に協働して取り組み、「キユーピーグループ 2030ビジョン」そしてキユーピーグループの理念「めざす姿」の実現に向け推進していきます。





重点課題と推進体制

キユーピーグループのサステナビリティ基本方針や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。



社外からの評価

キユーピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
  - 重点課題と推進体制
  - ステークホルダーとの対話
  - 社外からの評価
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

重点課題と推進体制

キユーピーグループ サステナビリティの考え方　キユーピーグループ サステナビリティ基本方針
サステナビリティ推進体制　サステナビリティに向けての重点課題
重点課題特定のプロセス　サステナビリティ目標 ～2030ビジョンの達成をめざして～
従業員への浸透

キユーピーグループ サステナビリティの考え方

キユーピーグループは、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」を持って世界の食と健康に貢献することで、社会に貢献し続ける企業でありたいと考えています。サステナビリティ活動を重要な活動と位置づけ、グループ理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤として、活動を推進します。

› キユーピーのサステナビリティ活動について

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、
解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、
笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献

- サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
- 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

- 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
- 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
- プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。
- 水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。
- 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。

気候変動への対応

- 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体の　　排出量削減をめざします。

生物多様性の保全

- 生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。

持続可能な調達

- 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

人権の尊重

- 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年4回委員会を開催しています。
重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。
また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティに向けての重点課題

キユーピーグループでは、「キユーピーグループ 2030ビジョン」の実現やSDGs※への貢献など、2030年からバックキャスト思考で検討し、以下のサステナビリティに向けての重要課題を特定しました。

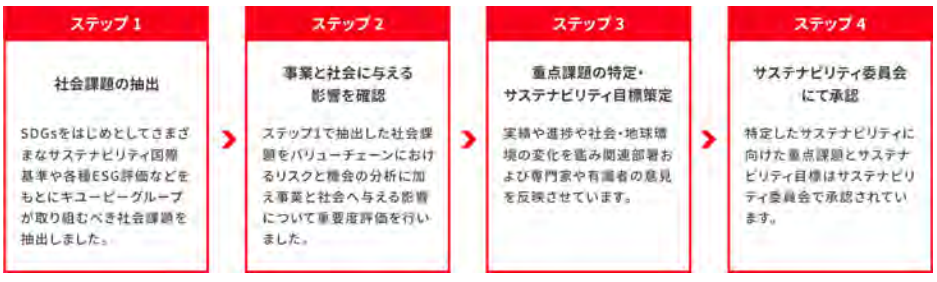
- 食と健康への貢献
- 資源の有効活用・循環
- 気候変動への対応
- 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重

サステナビリティに向けての重点課題は、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざす上で、事業と社会の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重点課題の見直しを行います。



※ 持続可能な開発目標（SDGs）
SDGs（Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

重点課題特定のプロセス



キユーピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

キユーピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題は、持続可能な開発目標（SDGs）、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に抽出しています。

事業と社会に与える影響

バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会課題ごとにステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価しサステナビリティに向けての重点課題を特定しました。

バリューチェーンにおけるリスクと機会



サステナビリティに向けての重点課題の特定



サステナビリティ目標 ～2030ビジョンの達成をめざして～

サステナビリティ目標は、サステナビリティに向けた重点課題にひも付け、キユーピーグループとして取り組むテーマを指標化したものです。
2023年度は、実績や進捗、社会・地球環境の変化を鑑み、重点課題に「生物多様性の保全」を追加しました。
従業員一人ひとりが、サステナビリティの意識と視点を持ち、キユーピーグループの理念と規範の践により、目標達成に向けて取り組んでいきます。

サステナビリティ目標と実績

重点課題	取り組みテーマ	指標	2022年度実績	2024年度目標	2030年度目標	SDGsとの関連付け
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進				
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数（2019年度からの累計）	28.6万人	40万人以上	100万人以上	
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率（2015年度比）	46.6%	50%以上	65%以上	
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）	77.5%	70%以上	90%以上	
		商品廃棄量削減率（2015年度比）	74.8%	60%以上	70%以上	
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率（2018年度比）	7.8%	8%以上	30%以上	
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率（2020年度比）	1.6%	3%以上	10%以上	
気候変動への対応	CO_2排出量の削減	CO_2排出量削減率（2013年度比）	26.1%	30%以上	50%以上	
生物多様性の保全	生物多様性の保全	生物多様性の保全に努め、豊かな自然の恵みを次世代につないでいくために「キユーピーグループ 生物多様性方針」を推進				
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進				
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キユーピーグループ 人権方針」を推進				

※「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。

※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。

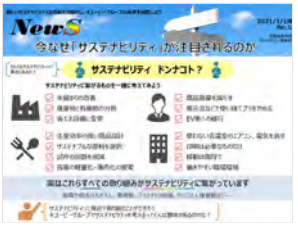
※2023年度より新たに「生物多様性の保全」を重点課題に追加しました。

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書などを従業員教育へ活用しています。社内広報ではキユーピーグループ社内報「iQP」、メールマガジン形式によるサステナビリティ通信「NewS」でのサステナビリティ情報を発信しています。



サステナビリティ通信「NewS」

キユーピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キユーピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステビリティへ共感することをめざしています。

› キユーピーグループ オフィシャルブログ

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
  - 重点課題と推進体制
  - ステークホルダーとの対話
  - 社外からの評価
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ステークホルダーとの対話

キユーピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践していきます。

※2022.11.30時点の実績

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段（2022年度実績）
お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	・お客様相談室（お客様の声 25,429件／年） ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キユーピーコミュニティおはなしダイニング」（会員数18,976人） ・コミュニティサイト「キユーピー マヨネーズ ファンクラブ」（会員数134,166人）
従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	・従業員意識調査（2年に1回） ・労使委員会による対話 ・ダイバーシティ ディスカッション ・キャリア自己申告（1回／年） ・上司と部下の面談を通した人材育成
お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会 ・生産農家・団体との取り組み
株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	・定時株主総会（1回／年） ※事前にご意見をいただける工夫 ・アナリスト向け決算説明会（2回／年）
地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	・オープンキッチン（工場見学）とマヨテラスの見学（25,417人／年） ※オンライン含む ・マヨネーズ教室（食育活動）（4,588人／年） ※オンライン含む ・食をテーマにした講演会（99回／年） ※オンライン含む ・介護に関するイベント（109回／年） ※ケアマネオンライン含む ・国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション ・マッチングギフト制度「QPeace」支援先団体の活動報告会（5回／年）

対談

「食」の枠を超えた「健康」企業へ向けて 環境変化をチャンスと捉え、自己変革を進めていく



ハロルド・ジョージ・メイ
経営アドバイザリーボード
社外委員

×

高宮 満
キユーピー株式会社代表取締役
社長執行役員

理念の浸透する企業文化

メイ キユーピーの事業領域は、私たちの生命の維持に欠かせないものです。社会への貢献を感じられる仕事をしたいと考えてきた私にとって、経営アドバイザリーボード社外委員としてその企業経営に関われることをとても誇りに思うと同時に強い使命感を抱いています。

高宮 メイさんからいただく日本特有の価値観にとらわれない視点のご助言に、大きな期待を持っていました。いつも分かりやすく前向きな提言やコメントをいただき、とても心強く感じています。

メイ 2021年1月にキユーピーの経営アドバイザリーボード社外委員になって随所に感じるのが、社是「楽業信悦」が社内に浸透していることです。多くの優秀な人材が相互に協力し合う姿勢を何度も見てきました。

高宮 ありがとうございます。私も社長就任後、各地の事業所を回っていますが、仲間同士、協力し合って仕事をしていることがよく分かります。従業員全員が「楽業信悦」を感じられる経営を進めていくことが一番大事ですが、同時に、目の前の仕事のその先に続く山頂はどこなのか、大きな方向性を示し、共有していく必要性を感じています。昔から語り継いできている社是「楽業信悦」を未来志向で語っていきたいですね。

「世界の食と健康」を通じて社会課題に向き合う

高宮 足元の原資材高騰などの経営課題については投資家との対話でもよく質問を受けますが、私は社内外で一貫して「動じる必要はない」と断言しています。厳しい経営環境はむしろチャンスだと捉えています。少し苦しい状況になって初めて、自社の強みと弱みが鮮明になり、未来に向けて何をすべきかが明確になるからです。成長戦略の一つに、「世界の食と健康に貢献する」というめざす姿を掲げています。それをベースとして「食」の枠を超え、より広い「健康」という領域に踏み込んでいきます。

メイ 私も「世界の食と健康に貢献する」というめざす姿には大きな成長余力を感じます。食べることで「体の健康」に貢献する既存ビジネスを第一の柱としながら、ファインケミカルの商品を通じた「心の健康」、さらには医薬品などの「科学で健康」にも貢献することで、更なる事業成長を実現できると思います。「人生100年時代」の到来を見据えると、これからは健康の「質」も大事ですよね。

高宮 健康の質に対しては、未病、免疫向上に関する開発を進めており、すでに花粉症などの対処にも有効な機能性表示食品を発売しています。また、日本に限らず世界で高齢化が進む中で、認知症の予防はグローバルな課題となっていますが、その領域でも卵の力を使って貢献できるような開発を進めています。



大きな事業機会が期待できるグローバル市場へのシフト

メイ 成長戦略としてもう一つ、日本からグローバルへのシフト、そして海外での利益を今の約2倍の200億円にするという目標になっていますね。総務省によると、日本の人口が今後100年で現状から6～7割減少する予測が出ており、「この変化は1,000年単位で見ても類を見ない極めて急激な減少だ」との記載もあります。そのような環境においては、これまでとは違う柱を育成するか、新たな市場、つまり海外で事業拡大していく必要があり、キユーピーはその両方を推し進めていくとしています。世界第3位を誇る日本のGDP（約550兆円）も、世界全体でみればわずか6%にしかすぎません。残る94%分に伸びしろを求めるその方向性は正しいと思いますし、とても期待しています。



高宮 100年の歴史がある当社も、醤油や味噌と並べられると調味料分野では新参者でした。もともと日本になかったマヨネーズやドレッシングを国内で普及・浸透させることで成長してきましたが、人口減という外部環境の変化に対して、海外という大きな市場への向き合い方が弱かったように思います。今、厳しい経営環境で事業の変革が求められる中、改めて海外という魅力的な市場を見つめ直し、社内組織についても、国内と海外とで分けるのではなく、日本をグローバル市場の中の一つの重点地域と捉える形にしていきたいと思っています。

メイ 実はキユーピーのように、100年を超える歴史を持つ企業は世界では多くありません。100年継続するということは、言い換えれば、これまで掲げてきた社是などの理念が示す大きな方向性が間違っていないということであり、海外企業と比較するととても大きな強みだと思います。

高宮 海外という大きな市場では今後も人口が増え続けます。たくさんの方々に、日本発のおいしさや健康を届け、幸せになっていただきたいと思います。

メイ 食文化などは各国・地域で異なりますが、その先にある健康は万国共通の願いです。一方、組織については、私も様々なグローバル企業で仕事をしてきましたが、グローバル企業になればなるほど、本社の役割がよくも悪くも小さくなる傾向があると感じます。30年先を見据えた大きな戦略はもちろん本社で策定するけれど、その実行については個々の国・地域に任せ、スピーディに各市場・消費者の特性に合わせた事業展開をしていくことが重要ですね。

高宮 そこは私も同じ考えです。私たちがお届けしたい日本発のおいしさの価値を、各市場に押しつけるのではなく、コミュニケーションを図りながらそれぞれの地域に受け入れられるようマーケティングを展開しています。例えば、「キユーピー マヨネーズ」と「キユーピー 深煎りごまドレッシング」は、どこの国の方にも「おいしい」と言っていただけますが、面白いのは、使い方が地域によって様々なんですね。多様な食文化・嗜好を持つ海外市場で受け入れられていることは、大きな自信になります。まだ輸出先も含めて世界62の国と地域にしかお届けできていませんから、もっと広げていきたいですね。

メイ もう一つ海外の視点で見ると、原料調達から製造・物流などのサプライチェーンにおける安全に対するこだわりは、海外でも強くアピールできる日本企業ならではの価値観だと思いますよ。

高宮 日本での「当たり前」が、世界で見ると魅力や価値となることは大いにあると思いますので、臆することなく、より高い品質の追求やものづくりへの想いを各国でも再現していきたいですね。今年1月の米国出張では、日本と同じ価値観・品質でしっかり商品が製造されているのを自分の目で確認してきました。堂々と安心して米国の皆さんに商品をお届けできると思いましたし、現地のスーパーでも当社ブランドの商品が並んでおり、実際に購入されたお客様を目にしたときにはとてもわくわくしました。米国進出から40年、うまくいかない時期もありましたが、人の動きや味の経験の広がりがグローバル化する中で、SNSなどでも当社商品の認知が高まり始めています。物事や流行には、じわじわと浸透してグッと伸びる瞬間がありますが、米国では「そろそろ来たぞ」と実感しました。

メイ キユーピーは商品と会社名が同一で、しかも横文字です。加えてキユーピーを象徴するマスコットもあるので、これはマーケティング上、非常に大きな武器になります。

高宮 ブランド認知度の拡大という点でも、今はとても大事なステージですね。

環境変化とキユーピーに必要な改革

メイ キユーピーの課題として私が認識しているのが、人材が謙虚すぎることです。とても優秀な人材が集まっているのに、謙虚を美徳とする日本の価値観に染まっていて、十分にその良さをアピールできていません。グローバルで戦うということは、グローバルな競合企業と戦うことであり、競合企業の人材に負けないぐらいのアグレッシブさ、リスクを取る精神、そして、事業の成功は時間との戦いだという意識をもっと高めてほしいですね。

高宮 業績が順調な時は謙虚であるくらいの方がバランスはよいのですが、今は変革が求められる時期です。自分たちの強みや魅力に気づき、讃耀することなく積極的に打って出る。変革を推し進めるためにも、私自身は、何かを「やめる」決断をすることも重要だと意識しています。ポジティブに元気よく、自信を持ってやっていこうと声をかけています。そのためにも、私たちの向かう方向性を社内外で強く発信していかなければいけませんね。

メイ PRに積極的な投資を行うのも一案かもしれません。また、海外に舵を切るとなると、これまで以上に人材が大事な資産になりますから、キユーピーの根底に流れる精神やこだわり、自信、長期戦略などを次世代の層にもアピールして優秀な人材の獲得につなげてほしいですね。今は、事業成長だけでなく、そのプロセスが問われる時代です。環境への配慮やDE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）などに対するキユーピーの姿勢も明確なものがありますから、どんどん訴求していってほしいと思います。

今後のキユーピーに期待すること

メイ 私の一番の期待は、キユーピーが、日本だけではなく世界を代表する企業となることです。今は食品メーカーという位置づけですが、食品の枠を超えて健康メーカーになるぐらいのアグレッシブさがあってもよいと思います。

高宮 まさに同じ思いです。大きく動いてグローバルに向く。そのほうが仕事は楽しいですよね。簡単ではありませんが、大きな夢、目標、ビジョンをもって、仲間たち、ブランド、商品、技術といった資産を活用し、実現していきたいと思います。



サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
重点課題と推進体制
ステークホルダーとの対話
社外からの評価
食と健康への貢献
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

社外からの評価

ESG・SRIインデックスへの選定　認定　表彰

ESG・SRIインデックスへの選定

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。キユーピーは、第三者調査の結果、2022年からFTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

› FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexウェブページ

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数※

MSCIはESGリサーチと指数開発の最大手です。この指数は、日本株の時価総額上位700銘柄の中から、業種内においてESG評価に優れた企業を選別して構築されています。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用対象として採用されており、キユーピーは2017年の初回より連続して構成銘柄に選定されています。

※キユーピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキユーピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI日本株女性活躍指数（WIN）※

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から性別多様性スコアの高い企業を選別しています。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用対象として採用され、キユーピーは2017年の初回から2019年までと2022年の構成銘柄に選定されています。

※キユーピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキユーピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のパイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。
キユーピーは2020年より連続して構成銘柄に選定されています。

ＳＯＭＰＯサステナビリティ・インデックス

ＳＯＭＰＯアセットマネジメント株式会社が、独自の評価に基づきESGの取り組みに優れる約300銘柄を採用し、毎年見直しを行うインデックスです。当インデックスに追随する「サステナブル運用」は、複数の年金基金・機関投資家が採用しています。キユーピーは2019年より連続して選定されています。

認定

プラチナくるみん※認定

キユーピーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん※の認定を受けました。

※ プラチナくるみんとは
2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。

「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キユーピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キユーポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

› 「仙川キユーポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました

健康経営優良法人

キユーピーは、優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2023（大規模法人部門）の認定を受けました。昨年に続き、2年連続の認定となります。

※ 健康経営優良法人認定制度とは
地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。

表彰

2022年	› 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」受賞 › 第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞「冷圧フレッシュ製法®」 日本食品工学会第23回年次大会 技術賞「冷圧フレッシュ製法®」 › 2022 日本パッケージングコンテスト　包装部門賞 食品包装部門賞「キユーピー平飼い卵 マヨネーズ」 › 2022 日本パッケージングコンテスト　包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞「レンジでチンするハッピーレシピ」 › 2022日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞「ヴェルデ　ピーナッツホイップ、チョコホイップ」 › 2022年度グッドデザイン賞「ＨＯＢＯＴＡＭＡ」シリーズ3品」
2021年	› 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰 › サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞 › サプライチェーンイノベーション大賞2021
2020年	› 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞 › 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞 › UCDAアワード2020 特別賞 › 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス
2019年	› 第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞 › 「IT JapanAward 2019」準グランプリ › 「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞 › 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞 › サプライチェーンイノベーション大賞2019 › 「スムーズビズ推進大賞」大賞 › 世界包装機構「ワールドスターコンテスト2019」フード部門 ワールドスター賞 › 第43回木下賞「新規創出部門」 › 「キユーピー３分クッキング」2019年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞
2018年	› 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 内閣総理大臣賞 › 平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

食と健康への貢献

キユーピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。
サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、国内外のあらゆるお客様の食と健康に配慮した商品開発を行い、食を中心としたさまざまな取り組みを通じて子どもの心と体の健康を応援していきます。
また、より良い社会の実現のため「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動に取り組んでいます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進	
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数（2019年度からの累計）	100万人以上



健康寿命延伸への貢献

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。



子どもの心と体の健康支援

食を中心としたさまざまな活動により未来を創る子どもたちに栄養面だけでなく食の大切さ楽しさを伝えています。



ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。



社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた継続的な地域貢献活動の実施や、歌やダンスなどの文化を通じた活動を応援しています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

健康寿命延伸への貢献

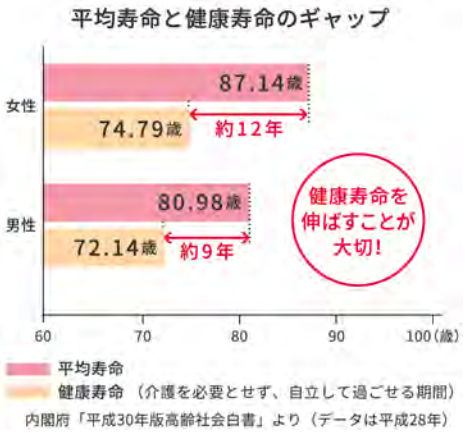
健康寿命延伸の考え方　健康寿命延伸に向けた協働・研究
一人ひとりの健康をサポートする取り組み　健康に配慮した商品
食物アレルギーへの取り組み　医療への取り組み　未病（がん予防）への取り組み
海外における健康への取り組み

健康寿命延伸の考え方

生涯健康のカギとなるフレイル予防に向けて、東京大学高齢社会総合研究機構により栄養（食事・口腔機能）・身体活動（運動を含む）・社会参加（社会活動）の3つの柱が提唱されています。しかし、これは決して高齢者だけではなく全世代に共通するポイントです。3つの柱は、1つよりも2つ、2つよりも3つと複数の柱を自分の生活サイクルにうまく組み込むことが大切です。
その中で、キユーピーグループは特に「栄養」に関して、サラダとタマゴを中心に一人ひとりの楽しく健康な食生活をサポートすることを中心に健康寿命延伸への貢献をしていきます。



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱



内閣府「平成30年版高齢社会白書」より（データは平成28年）

食と健康への貢献

健康寿命延伸に向けた協働・研究

運動と食の両面から健康を応援！

健康な生活を送るためには「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの要素が大切という考えを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。
手軽に効果的にたんぱく質を摂取したいというスポーツジム利用者やインストラクターからの要望を受け、利用者へ健康情報の提供を行ったり、ホームページで食に関するクイズやメニューを発信しています。



共同プロジェクトで健康な食生活に役立つ情報を発信

「健康な食生活に貢献したい」という想いを共有する株式会社ABCクッキングスタジオと共同プロジェクト「サラダとタマゴの食と健康キッチン」を立ち上げました。野菜不足やたんぱく質不足、塩分の過剰摂取など、食生活の課題に対して、両社の強みや特徴をいかしたWEBコンテンツや、1dayレッスンなどを通じて「サラダとタマゴ」にまつわる健康な食生活に役立つ情報を発信しています。
2023年3月には健康についての意識や、サラダや卵料理をつくるときの悩みや課題をリサーチしまとめた「サラダとタマゴの食と健康白書2023」を公表しました。

ABC Cooking Studio × kewpie
サラダとタマゴの食と健康キッチン

東京大学高齢社会総合研究機構との取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構と連携し、志を共にする企業と、高齢者の食生活向上に向けて業界連携の場である食のコンソーシアム（「食の在り方研究会」）に参画しています。「食の在り方研究会」では、フレイル予防・対策に向け、生涯健康のための3つの柱を基軸に、新たな産業創出をめざしています。超高齢・人口減少社会を迎えている日本において、医療や介護の分野での限りある公的資源を維持継続していくためにも、フレイル予防に役立つさまざまな産業の発掘と健全な育成をめざします。

IOG
東京大学高齢社会総合研究機構

食生活に関する調査の実施と健康な食生活提案

健康寿命は食生活との関わりが強く、生活習慣病予防としては塩分を控え、野菜を積極的に摂取することが必要といわれています。
そこで、健康な食生活提案に向けて、長寿県であり、野菜の摂取量も多い長野県松本市・松本大学と、及び東京都渋谷区・東京都健康長寿医療センターとそれぞれ共同調査を実施し、その結果を学会発表や論文にまとめました。
さらに、そうした結果をもとにお客様に向けた食生活提案を地元企業と共に取り組み始めています。

› 松本大学と共同研究の成果を発表 1
› 松本大学と共同研究の成果を発表 2
› 渋谷区と共同調査を実施

鶏卵の摂取による認知機能改善効果

生物系特定産業技術研究支援センター（以下生研支援センター）が公募する「令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業※1」に応募し、「鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発」のテーマで採択※2されました。キユーピーはこのうち「応用研究ステージ」にて、鶏卵の認知機能改善効果を明らかにし、その機能性成分を高含有する付加価値卵の開発を五者共同でめざします※3。鶏卵の摂取による「認知機能改善効果」を明らかにするとともに、改善に関与する成分を特定し、その効果をヒト試験で確認することを目的としています。



研究体制

※ 従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出を目的とした、「知」の集積と活用の場による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業

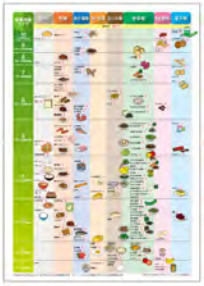
※ 令和3年度「イノベーション創出強化研究推進事業」の公募における審査結果について：
› 生物系特定産業技術研究支援センター

※ 共同研究機関：国立大学法人東京大学、学校法人東京医科大学、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
› 令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択

一人ひとりの健康をサポートする取り組み

噛むことの大切さを啓発

近年、噛む回数が少なくて済むやわらかい食べ物が増えています。やわらかい食べ物は、「噛む力」の低下を招き、その低下が身体に及ぼす影響※は多岐にわたると言われています。“噛むことの大切さ”の啓発を目的に株式会社ロッテと和洋女子大学とで共同研究に取り組んでいます。2022年には、これまで共同で行ってきた食品ごとの噛む回数に関する研究成果をまとめ、ランク付けした「咀嚼回数ランク表」を公開しました。


咀嚼回数ランク表

※影響の一例として、咀嚼力が高いほど糖尿病の有病率が低いことが報告されています
Toru Y et al., Mastication and Risk for Diabetes in a Japanese Population: A Cross-Sectional Study. PLOS ONE(2013) Volume 8, Issue 6

› よく噛むことを心がけよう！

› 食品の咀嚼回数や咀嚼効果の研究による健康貢献

食をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。
健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。
プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで観たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。
参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

開催中の講演会プログラム ›

介護に関するイベント

キユーピーは1998年に日本で初めて市販用介護食を発売しました。2005年には日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。
高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。また、一般の方を対象としたイベントも開催しています。

たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。
「タマゴのリーディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語れる従業員を増やすことが目的です。
三ツ星タマリエ検定取得（日本卵業協会）に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。
全国約690人の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っていきます。



たまごスター認定証

たまご白書

「たまご白書」は、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告で2017年より実施しています。卵について魅力を感じることや好きな卵料理などのアンケートから、卵の正しい知識の啓発や、卵料理の楽しみ方の提案へと生かしていきます。

› 「たまご白書2022」を公表



健康に配慮した商品

キユーピーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

厚生労働省許可特定保健用食品


キユーピー
ディフェ

機能性表示食品



キユーピー
アマニ油
マヨネーズ



キユーピー
アマニ油
ドレッシング



キユーピー
フィッテ



キユーピー
フィッテ
ドレッシング

低カロリー・減塩対応食品



ジャネフ
ノンオイルドレッシング

食物アレルギーへの取り組み

近年、日本をはじめとする先進国では、食物アレルギーは増加の一途をたどっており、食品メーカーとして対応すべき重要な課題と考えています。キユーピーでは、より多くの方に食事を楽しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

商品表示

キユーピーでは、一目でわかりやすいように、法令で定められている表示方法に加えて、商品に含まれるアレルゲン（特定原材料7品目と表示が推奨されている21品目について）をまとめて表示しています。また育児食（ベビーフード）については、重篤度が高い、あるいは症例数が多い食物アレルゲン7品目「卵・乳成分・小麦・えび・かに・そば・落花生」の使用の有無について、商品の正面に一目でわかるように表示しています。



アレルゲンアイコン

食物アレルゲン7品目不使用のベビーフード

小麦を使用していないしょうゆなど原材料から配慮し、食物アレルゲン7品目を使用しない育児食（ベビーフード）の開発を行っています。

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キユーピーは、卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料（業務用）を学校給食向けに発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月に「「キユーピーエッグケア（卵不使用）」を市販向けに発売しました。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。



HOBOTAMA

もっとタマゴのおいしさと魅力を届けたい、一人ひとりの食に寄り添っていきたい、子どもたちの明るい未来を支えていきたいという想いを具現化するため、プラントベースフードの開発に取り組み「HOBOTAMA」を商品化しました。アレルギーなどさまざまな理由で卵を食べられない方にも、寄り添うことができる商品です。



卵アレルギー研究

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされていましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効※」であることがわかってきました。キユーピーグループは、加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。



加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵素材

※2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6ヵ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

医療への取り組み

キユーピーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1（2020年富士経済調べ）となっています。



キユーピー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

キユーピーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。
キユーピーのヒアルロン酸は、医療用点眼剤や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

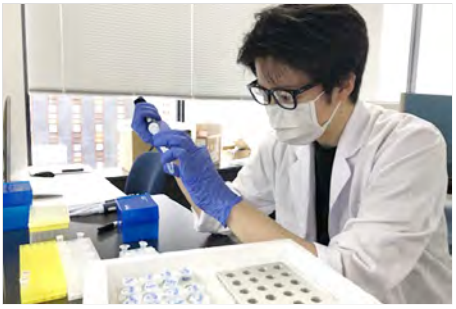
消化管（胃・食道・大腸など）の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キユーピーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

› 検査食

未病（がん予防）への取り組み

キユーピーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2018年には将来の発がんリスクを判定する研究を始めています。
血液中に存在するマイクロRNAという成分を測定することで、将来の発がんリスクを判定し、マイクロRNAの発現量を改善する食提案で疾病予防の実現をめざしています。現在、これに向け、横浜国立大学、東京医科大学と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が運営する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」のプロジェクトを進めています。



› “将来の発がんリスク判定技術の実現”に向けて

海外における健康への取り組み

それぞれの国のライフスタイルや食の歴史・文化を理解し、お客様に寄り添いながら、キユーピーグループが持つ「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」によって新しい食べ方や食シーンを提案し、世界中の人々の心と体の健康に貢献していきます。

各国の食文化に合わせた商品開発

キユーピーグループは、日本のオリジナルマヨネーズの味を大切にしながら、海外拠点においても現地の食材や料理に合った調味料の開発に力を注いでいます。
中国ではフルーツサラダに好んで使われる甘いタイプのマヨネーズを開発し、広く使われるようになっています。また、中国北部で一般的に食べられている大拌菜（ダーバンツァイ）というサラダ向けにドレッシングを開発し、現在では中国各地で人気の商品になっています。
マレーシアとインドネシア、タイの3カ国でハラル認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国に向け販売を行っています。
このように現地のニーズに合わせた商品の開発を行い、世界中の人々においしさを提供しています。



左:甘いタイプのマヨネーズ
右:大拌菜ドレッシング



キユーピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル
（ハラル認証）

中国における食と健康啓発活動

中国でも健康志向は高まりを見せる中、「中国の食と健康への貢献」をめざす丘比(中国におけるキユーピーブランド）では、日本や現地での研究成果を生かし、上海市食品学会などと健康普及活動を展開しています。
また、店頭の野菜売り場では、野菜の健康機能を啓発しつつサラダに注目していただく活動も開始しており、上海・北京を起点として中国全土への拡大を進めています。



活動の様子（上海）

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

子どもの心と体の健康支援

子どもの心と体の健康支援の考え方　食育活動　フードバンク活動の支援
食を通じた「子どもの貧困対策」への支援　ベルマーク運動
WFP「レッドカップキャンペーン」

子どもの心と体の健康支援の考え方

「食」には体をつくる、体の調子を整えるなど、栄養面だけではなく、健全な心を育む力があります。さまざまな活動を通じて食べることの大切さや楽しさを伝えることで子どもたちの生きる力、考える力を支援していきます。

食育活動

キユーピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン（工場見学）」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。
その他、食に関する情報を提供しています。ホームページでも新たに「食生活アカデミー」などの食育コンテンツを設けたり、健康な心と体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。



› 活動の全体像

食育活動 ›　海外における食育活動 ›

オープンキッチン

キユーピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。
オープンキッチン（工場見学）の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。2019年までは年間約7万人の見学者を受け入れていました。
現在は、オンライン見学と来場見学の両方を実施しています。オンライン見学では、来場が難しい遠方の方や外出できない方、海外在住の方にも見学していただくことができます。

› 詳しくはこちら

食育コンテンツ

キユーピー公式サイトにて、さまざまな食育コンテンツを開設しています。
子どもたちが主体的に学べたり、一緒に楽しめるコンテンツとして、役立つ情報を随時追加し、内容も充実させていきます。

› 食生活アカデミー

› 子どもと野菜をたのしもう

› みんなの食と健康応援

野菜料理をつくる経験は子どもの心理的発達によい影響があります！

親子で一緒に野菜料理をつくることはお子さんの「こころの健康や成長」にとって非常に重要だということが発達心理学領域の研究からわかりました。
月に1回以上の野菜料理の共同調理経験があるお子さんは、野菜料理以外の共同調理経験のみあるお子さんや共同調理経験がないお子さんと比較して、自己統制力、主張力、協調性、自己肯定感、論理的・集中的態度、好奇心の全6項目の心理的発達項目において、スコアが有意に高いことがわかりました。
「野菜」とひとくちに言っても、その種類は非常に多く、色・形・香りなどもさまざまです。
また、野菜を使った料理も多岐にわたり、健康な食生活という観点からも食卓への出現頻度が非常に高いのが特徴です。これらの特徴が、子どもの心理的発達に野菜料理の共同調理経験が好影響を与える要因である、と推察できます。

› 詳しくはこちら

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約522万トン（令和2年度推計値：農林水産省）あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キユーピーは、2007年よりフードバンク活動※1を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」の支援を始め、今では全国のフードバンク13団体と、提携を結んだ3つの社会福祉協議会を通じて商品を寄贈しています。この活動は、グループ各社にも広がっています。
また、キユーピーみらいたまご財団を通じて、全国食支援活動協力会の立ち上げたMOWLS※2への商品寄贈など、新たな取り組みも始めました。

※1 フードバンク活動：食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動
※2 MOWLS：一般社団法人全国食支援活動協力会が運営する全国のこども食堂等の「居場所」に集う子どもから高齢者等すべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キユーピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キユーピーみらいたまご財団※」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

※キユーピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



公益財団法人 キユーピーみらいたまご財団

食育活動および子ども食堂など食を通した子どもの居場所づくりに取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しております。

2017年～2022年助成団体数：483団体
2017年～2022年セミナー開催数：11回

キユーピー みらいたまご 財団

› 公益財団法人 キユーピーみらいたまご財団

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キユーピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。

これからも、幅広い社会教育活動を支援しているこの運動を応援していきます。



ベルマークとキユーピー商品

ベルマークはキユーピーのマヨネーズとドレッシングについています。



ベルマークがついている商品

財団法人 ベルマーク教育助成財団

WFP「レッドカップキャンペーン」

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。
キユーピーベビーフード「ハッピーレシピ」シリーズは、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。

レッドカップキャンペーン



サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
  - 健康寿命延伸への貢献
  - 子どもの心と体の健康支援
  - ユニバーサルデザインへの取り組み
  - 社会貢献活動
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ユニバーサルデザインへの取り組み

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方　ユニバーサルデザインを取り入れた例
ユニバーサルデザインフード

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キユーピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。
キユーピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。

キユーピーのユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

細口と星型のダブルキャップ



キユーピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。お料理の仕上げのデコレーションには細口で、タップリとかけたいときは星型で。お料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に隠されています。



軽く持ちやすい容器

より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル



キユーピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「持ちやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの容器を採用しています。

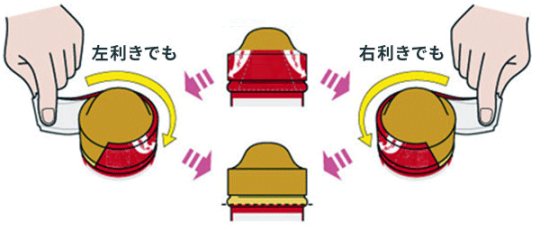


キャップシール

左右どちらでも開けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク（フィルム）は、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封することができます。この「易開封シュリンク」は、「2009 日本パッケージングコンテスト」において食品包装部門賞を受賞しました。さらに、シュリンクに上から下までのミシン目も追加し、分別の際のはがしやすさに配慮しています。





多面体デザイン

瓶の上部を多面体にすることで、握りやすさと開けやすさを実現しました。



パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキユーピーのグループ会社であるディスペンパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されており、2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞※を受賞しました。

※ グッドデザイン・ロングライフデザイン賞：長年にわたり作り手と使い手、社会との対話の中で醸成され、暮らしや社会の礎となり、未来においてもその役割を担い続けてほしいデザインを選び、顕彰する賞です。





パキッテ「トマト＆あらびきマスタード」
2種類の液を同時に出せる

分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



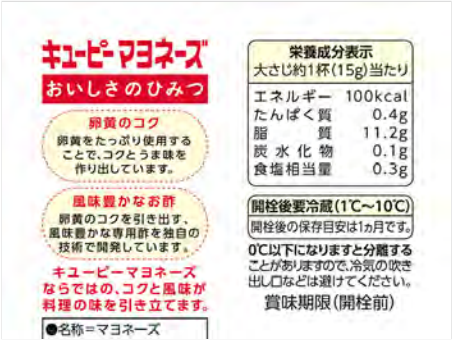
点字表示

「アヲハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。



ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キユーピーはさまざまな商品を開発してきました。いつまでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人のかむ力、飲み込む力に合わせて4段階に区別されています。



ユニバーサルデザインフード（UDF）とは

ユニバーサルデザインフード（UDF）は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟92社：2023年1月現在)は消費者がより分かりやすいように咀嚼嚥下（かむ力・飲みこむ力）に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて4段階に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。

ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安（ごはんの調理例）	ごはん〜やわらかごはん 	やわらかごはん〜全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安（たまごの調理例）	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し（具なし） 

› 日本介護食品協議会ホームページ

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
食と健康への貢献
健康寿命延伸への貢献
子どもの心と体の健康支援
ユニバーサルデザインへの取り組み
社会貢献活動
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

社会貢献活動

社会貢献活動の考え方　地域との連携　地域貢献活動　文化貢献
教育支援活動　マッチングギフト制度　その他の社会貢献活動

社会貢献活動の考え方

キユーピーグループは、人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現をめざした貢献をしていきたいと考えています。
そのために、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、地域社会とのより良い共生をめざして社会貢献活動に取り組んでいます。特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、さまざまな地域の発展につながる活動を行っています。

地域との連携

キユーピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいきます。

山形県との取り組み

キユーピーは、山形県と2019年2月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キユーピーと山形県の双方が持つ資源を有効に活用して協働することにより、「やまがた創生」に資することを目的としています。

協定内容

1. 山形県産農産物の地産地消の推進と利用拡大に関する事項
2. 健康増進に関する事項
3. 食育の推進に関する事項
4. 子どもの貧困対策に関する事項
5. 災害対策に関する事項
6. その他、「やまがた創生」の推進に関すること

取り組み内容

- 県内小学校にてマヨネーズ教室の実施
- 地域スーパー惣菜部と連動し、「減塩・ベジアップ」企画を実施

渋谷区との取り組み

キユーピーは、渋谷区と2016年12月、地域社会の課題解決を目的とした包括連携協定である「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定（SSAP）」を締結しました。本協定を通じて、新たな取り組みを渋谷区と協働して推進し、社会・地域とのより良い共生を図ります。

協定内容

1. 食育や子どもの貧困課題の解決に関する支援
2. 超高齢社会における健康増進領域の支援
3. 環境領域の課題（食品ロス含む）に関する研究と解決策の提供
4. 文化・芸術振興における支援、企画立案、情報発信施策の企画開発
5. ダイバーシティの実現に向けた研究や啓発活動への支援
6. 人材開発や研修プログラムにおける人的交流



取り組み内容

- 渋谷区民の野菜の摂取量や、フレイル予防に効果的な卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施
  › 健康的な食生活提案のために渋谷区と共同で調査開始
- 令和4年度 渋谷区総合防災訓練「渋谷防災キャラバン」に参加

広島市との取り組み

キユーピーは、広島市と2018年3月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キユーピーと広島市の双方が持つ資源を有効に活用した取り組みを推進していきます。

キユーピーと広島市は、本協定を通じて「広島近郊6大葉物野菜」などの地産地消の推進や1日あたりの野菜摂取量増加につながる取り組みなどを、連携して行います。

協定内容

1. 地産地消の推進に関する事項
2. 野菜摂取向上に関する事項
3. 健康増進に関する事項
4. 食育の推進に関する事項
5. 災害対策に関する事項

取り組み内容

- 広島県、広島市、ＪＡ全農ひろしまと連携し、地元食材×たんぱく質を組み合わせた「ひろしまサラダ」を提案

広島県との取り組み

アヲハタ株式会社は、2013年より広島県と「包括的連携に関する協定」を締結しています。この協定を通じて、広島県産オリジナル商品（瀬戸内ブランド）の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関すること、地域の安全・安心に関することなど、多岐にわたる取り組みを進めています。

協定内容

1. 瀬戸内ブランドの推進や県産品の販売促進に関すること
2. 県政情報の発信、観光振興に関すること
3. 教育・文化の振興に関すること
4. 健康増進・食育に関すること
5. 環境対策・リサイクルに関すること
6. 地域の安全・安心に関すること
7. 障がい者支援に関すること
8. 子育て支援に関すること
9. その他、県民サービスの向上、地域社会の活性化に関すること



瀬戸内ブランドの登録商品

取り組み内容

- 地域のボランティアが主体となり、小学校の子どもたちが始業前に集まり、朝ごはんを食べる広島県「朝ごはん推進モデル事業」に対し、商品を提供
- 広島ならではの給食メニューのレシピを公募し、その中から選ばれたメニューを給食で提供する「ひろしま給食推進プロジェクト」の広島県の取り組みに対し、メニュー審査や商品を提供

福島県における取り組み

キユーピーでは、「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施しています。

取り組み内容

- JA全農福島が企画する「きゅうり栽培大作戦」に参画し、オンラインマヨネーズ教室を実施
- 福島県民の健康増進を目的とした「ふくしま健康応援メニュー」を共同開発

愛知県との取り組み

あいち みんなのサラダ プロジェクト

愛知県は農業産出額では全国有数ですが、県民の野菜摂取不足が課題となっています。
そこで愛知県民の野菜摂取向上をめざし、地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設置しました。
プロジェクトメンバーと一緒に、県民が好む「うま味」「食べごたえ」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」を考案し、県内の飲食店へ提案しています。
2023年1月時点での賛同店は約140店、提供店は約50店です。
また、2018年、2019年の野菜の日にはプロジェクトの認知、「あいちサラダめし」のさらなる普及・定着に向けたイベントを実施しました。2021年以降も、テレビなどのメディアでの露出や、商店街の飲食店でのイベント実施などにより、継続した啓発を図っています。
今後は、より多くの外食店へ展開し、中食、内食への定着を進めていくことで、愛知県のみなさまの、野菜をおいしく楽しむ食生活を応援します。

全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ※」の取り組みを始動

2023年にキユーピーと全国農業協同組合連合会との共同で、全国各地の食材で作る「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動します。
地域ごとにキユーピーの支店・営業所と全農の都府県本部が協力し、ご当地ペイザンヌサラダと、サラダに使用するご当地食材の販促活動を、地域の量販店や自治体と連携しながら実施します。
この取り組みを通して、地元野菜の新しい食べ方を提案し、野菜の消費を後押しするとともに、地産地消による地域の活性化に貢献していきます。



※ペイザンヌサラダとは？
ペイザンヌサラダとは、「田舎風サラダ」という意味で、フランスで親しまれている、野菜と卵などを盛り合わせたカジュアルなサラダです。
いつもの食材で簡単に作れて、食べ応えがあるのが特徴です。

地域貢献活動

キユーピーグループは、地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた持続可能な活動を推進しています。従業員が積極的に携わることで、継続して地域貢献活動を実施することをめざしています。

地域清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キユーピーグループ　オフィシャルブログ」でも紹介しています。

› キユーピーグループ オフィシャルブログ



アヲハタ　アダプト活動

アヲハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動※への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アヲハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年5～6回清掃活動などを行っておりその道路には「アヲハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。

従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動を続けていきます。

※ アダプトとは英語で「○○を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみたて、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。





海外グループ会社での地域貢献活動

キユーピータイランド（KEWPIE（THAILAND）CO., LTD.）では、「環境」「地域貢献」「子ども支援」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。環境活動では、ソーラーシステムの運用、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進により環境負荷低減を進めるとともに、水源保持の為の植林活動を継続的に行っています（2022年22,000本）。地域貢献として、病院への医療機器提供やマスクや無塵衣等の新型コロナウイルス感染症対応支援や近隣への消毒用アルコール支援等を行っています。また、廃棄物残さの堆肥活用と近隣住民への配布も継続して取り組んでいます。さらに就学支援として、従業員子女への就学支援、近隣小学校の図書室や遊具改装支援・飲み水等衛生設備の導入・メンテナンスを行っています。



病院への医療機器支援



近隣への消毒用アルコール提供の様子



図書室改装支援



改修した小学校遊具

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キユーピーは、「全日本おかあさんコーラス大会（全日本合唱連盟・朝日新聞社主催）」と「全沖縄おかあさんコーラス大会（全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催）」に協賛しています。
これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。
ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ600団体が参加する大規模な催しになっています。そのなかから選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

全日本合唱連盟



全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井歓全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。
第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール（東京）で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ600団体が参加する大規模な催しになっています。

開催実績 −

開催年（回数）	開催地	会場	あゆみ
2022年（第45回）	東京都	昭和女子大学人見記念講堂	ー
2021年（第44回）	静岡県	アクトシティ浜松大ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインイベント「おかあさんコーラス　オンラインフェスティバル2021」を実施
2020年（第43回）	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止 オンラインで「バーチャルおかあさんコーラス」を実施
2019年（第42回）	石川県	金沢歌劇座	ー
2018年（第41回）	愛媛県	ひめぎんホール	ー
2017年（第40回）	岡山県	岡山シンフォニーホール	ー
2016年（第39回）	青森県	リンクステーションホール青森	ー
2015年（第38回）	北海道	札幌コンサートホールKitara	ー
2014年（第37回）	新潟県	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館	ー
2013年（第36回）	大阪府	フェスティバルホール	ー
2012年（第35回）	東京都	文京シビックホール　大ホール	35回記念大会として、全国大会を3日間開催。
2011年（第34回）	福岡県	アクロス福岡	ー
2010年（第33回）	長野県	長野県県民文化会館　ホクト文化ホール	ー
2009年（第32回）	愛媛県	ひめぎんホール	ー
2008年（第31回）	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	ー
2007年（第30回）	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花ホール	ー

2006年 （第29回）	北海道	札幌コンサートホール Kitara	ー
2005年 （第28回）	長崎県	長崎ブリックホール大ホール	ー
2004年 （第27回）	神奈川県	よこすか芸術劇場	ー
2003年 （第26回）	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	ー
2002年 （第25回）	東京都	東京文化会館　大ホール	25回記念大会として、「ひびけ おかあさん in Tokyo !」をサブタイトルに全国大会を3日間開催。
2001年 （第24回）	富山県	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	ー
2000年 （第23回）	香川県	香川県県民ホール グランドホール	ー
1999年 （第22回）	岩手県	岩手県民会館	ー
1998年 （第21回）	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、全国大会１日目の夜に「コーラスジャンボリー」を倉敷チボリ公園で開催。
1997年 （第20回）	北海道	札幌コンサートホール Kitara	ー
1996年 （第19回）	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	ー
1995年 （第18回）	群馬県	群馬音楽センター	ー
1994年 （第17回）	京都府	京都会館　第１ホール	ー
1993年 （第16回）	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
1992年 （第15回）	東京都	東京芸術劇場　大ホール	ー
1991年 （第14回）	愛媛県	愛媛県立県民文化会館　メインホール	ー
1990年 （第13回）	福島県	郡山市民文化センター　大ホール	ー
1989年 （第12回）	広島県	広島厚生年金会館ホール	ー
1988年 （第11回）	北海道	北海道厚生年金会館ホール	ー
1987年 （第10回）	福岡県	福岡サンパレス　大ホール	少年少女合唱祭（第１回）を併催。もう一つのおかあさんコーラス

			大会と銘打った「おかあさんカンタート」を始める。
1986年 （第9回）	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
1985年 （第8回）	大阪府	フェスティバルホール	ー
1984年 （第7回）	東京都	ゆうぽうと簡易保険ホール	ー
1983年 （第6回）	愛知県	名古屋市民会館　大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
1982年 （第5回）	兵庫県	神戸文化ホール　大ホール	ー
1981年 （第4回）	東京都	普門館	ー
1980年 （第3回）	京都府	京都会館　第１ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
1979年 （第2回）	東京都	東京文化会館　大ホール	ー
1978年 （第1回）	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点に1979年にスタートしました。最初は舞台に立って歌い終わると、そでから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井歓氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩をしるしました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に開き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催実績 −

開催年（回数）	会場	あゆみ
2022年（第42回）	琉球新報ホール	3年ぶりの開催。オンラインでの同時配信を実施。
2021年	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を延期
2020年（第41回）	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止
2019年（第40回）	琉球新報ホール	ー
2018年（第39回）	豊見城市立中央公民館	ー
2017年（第38回）	豊見城市立中央公民館	ー
2016年（第37回）	浦添市てだこホール	ー
2015年（第36回）	浦添市てだこホール	ー
2014年（第35回）	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
2013年（第34回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2012年（第33回）	浦添市てだこホール	ー
2011年（第32回）	浦添市てだこホール	ー
2010年（第31回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2009年（第30回）	浦添市てだこホール	ー
2008年（第29回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2007年（第28回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2006年（第27回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
2005年（第26回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2004年（第25回）	沖縄市民会館　大ホール	ー
2003年（第24回）	名護市民会館　大ホール	ー

2002年 （第23回）	那覇市民会館　大ホール	ー
2001年 （第22回）	那覇市民会館　大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
2000年 （第21回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1999年 （第20回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1998年 （第19回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1997年 （第18回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1996年 （第17回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1995年 （第16回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1994年 （第15回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
1993年 （第14回）	沖縄コンベンションセンター　劇場棟	ー
1992年 （第13回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1991年 （第12回）	沖縄市民会館　大ホール	ー
1990年 （第11回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1989年 （第10回）	那覇市民会館　大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
1988年 （第9回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1987年 （第8回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1986年 （第7回）	那覇市民会館　大ホール	ー
1985年 （第6回）	那覇市民会館　大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
1984年 （第5回）	労働福祉会館　大ホール	ー
1983年 （第4回）	労働福祉会館　大ホール	ー
1982年 （第3回）	労働福祉会館　大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。

1981年 （第2回）	琉球新報ホール	ー
1980年 （第1回）	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キユーピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール（朝日新聞社主催）」に協賛しています。
リズムダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動にとり入れられており、基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現力、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うツールとして、教育面でも非常に期待されています。キユーピーは、今後も元気の源となる食を通じて、仲間と一緒にダンスをがんばる子どもたちの健やかな成長を応援していきます。



全日本小中学生ダンスコンクールのあゆみ

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年に創設された大会です。
2014年には、ブロック大会（東日本、西日本）と全国大会が創設され大会の規模が拡大しました。現在は4つのブロック大会と全国大会に、のべ3,600名以上の小中学生が参加する国内最大規模のダンスコンクールの1つとなっています。
2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全大会が中止となり、オンラインでのダンス発表会を実施しました。2021年は動画審査で代表チームを選出し、全国開催を開催しました。10回大会となる2022年は、3年ぶりにブロック大会・全国大会を開催することができました。



公式ホームページ

開催実績 −

開催年 （回数）	会場	あゆみ
2022年 （第10回）	国立代々木競技場　第二体育館	3年ぶりにブロック大会を開催
2021年 （第9回）	国立代々木競技場　第二体育館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためブロック大会が中止。11月に全国大会と、オンラインでの発表会を開催。

2020年 （第8回）	ー	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全大会が中止。オンラインでの発表会「全日本小中学生DANCELIVE2020」を開催。
2019年 （第7回）	駒沢オリンピック公園　総合運動場体育館	ー
2018年 （第6回）	駒沢オリンピック公園　総合運動場体育館	ー
2017年 （第5回）	川崎市とどろきアリーナ	ー
2016年 （第4回）	川崎市とどろきアリーナ	東海大会、九州大会を設立
2015年 （第3回）	国立代々木競技場　第二体育館	ー
2014年 （第2回）	国立代々木競技場　第二体育館	西日本大会、東日本大会設立
2013年 （第1回）	渋谷公会堂	大会創設

教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ（職場体験学習）の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されています。給付型の奨学金制度で、2002年より毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。
キユーピーとキユーピータマゴでは、2017年から一般の消費者様向けにスーパーやスポーツジムなどで卵の栄養・健康機能の認知啓発活動「たまご勉強会」を行っています。また、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告「たまご白書」を発行し、卵に関する正しい知識の啓発・卵料理の楽しみ方の提案につなげています。

寄付講座

› 東京農業大学 キユーピー「エッグイノベーション」寄付研究部門

共同研究講座

› キユーピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所

マッチングギフト制度（ＱＰｅａｃｅ）

キユーピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「ＱＰｅａｃｅ(キユーピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2021年度は、グループ26社が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする11の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



ＱＰｅａｃｅの流れ

1.従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2.寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、ＱＰｅａｃｅに積立
3.会社は従業員の積立金と同額を支援
4.各社会・環境活動団体へ寄付

2023年ＱＰｅａｃｅ支援団体（182KB）



その他の社会貢献活動

エコキャップ運動

2015年より東京都内のキユーピーグループ各事業所で回収したペットボトルキャップをキユーピーあいで回収し、エコキャップとしてNPOへお渡しして途上国でのワクチン接種の支援につなげています。



2022年度回収実績

重量	個数	預かり寄付金	ワクチン接種人数
386kg	166,057個	3,861円	193人

学生服リユース活動

2020年から、さまざまな事情で学生服や学用品が買えないご家庭、子どもたちのために「学生服のリユースShop さくらや」の学生服リユース活動に参加しています。
キユーピーグループでは、期間限定で仙川キユーポートと渋谷オフィスに回収ボックスを設置し、制服を回収しました。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
  - 環境マネジメント
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
  - 気候変動への対応
  - 生物多様性の保全
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

地球環境への貢献

キユーピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動が与える影響を十分に配慮し、将来にわたってこれまでと同様の環境を残し、次世代に引き継いでいく使命があると考えています。
そこで、「社会・地球環境への取り組みを強化」を経営方針の一つとして定めグループ全体で取り組んでいます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率（2015年度比）	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど（当年）	90%以上
		商品廃棄量削減率（2015年度比）	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率（2018年度比）	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率（2020年度比）	10%以上
気候変動への対応	CO_2排出量の削減	CO_2排出量削減率（2013年度比）	50%以上
生物多様性の保全	生物多様性の保全	生物多様性の保全に努め、豊かな自然の恵みを次世代につないでいくために「キユーピーグループ 生物多様性方針」を推進	



環境マネジメント

キユーピーグループの方針として環境方針を定めています。



食品ロスの削減・有効活用

容器の改良・賞味期間の延長などでの食品ロス削減に加え、食資源の有効活用に取り組んでいます。



プラスチックの削減・再利用

品質第一主義を守りながら、容器の軽量化・薄肉化や再生材の採用など商品・サービスにおける環境負荷低減に取り組んでいます。



水資源の持続的利用

人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的な活用に取り組んでいます。



気候変動への対応

調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階で省エネルギーやエネルギー転換に積極的に取り組んでいます。



生物多様性の保全

原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努めています。

サステナビリティ

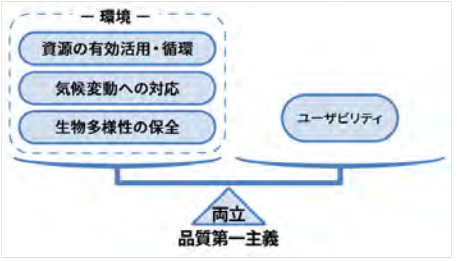
- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
  - 環境マネジメント
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
  - 気候変動への対応
  - 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

環境マネジメント

環境マネジメントの考え方　キユーピーグループ 環境方針　環境マネジメント推進体制
環境マネジメントシステム　環境法規の遵守　環境監査
事業活動における環境影響　地域への環境配慮　環境コミュニケーション

環境マネジメントの考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動における環境影響に配慮するとともに「品質第一主義」を土台にしたユーザビリティと地球環境との両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。



キユーピーグループ 環境方針

環境理念・行動指針からなるキユーピーグループ 環境方針は、1998年12月に国内外での環境保全の意識の高まりを受けて制定※しました。キユーピーグループ サステナビリティ基本方針と連動し、取り組みを推進します。

※2022年9月改訂

キユーピーグループ 環境方針

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
バリューチェーン全体の活動において環境配慮に努めます。

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境の影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応えうる環境管理体制の整備と充実を図ります。

重点課題と目標の設定

キユーピーグループでは、地球環境への取り組みとして「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」のそれぞれの重点課題の取り組みについて指標（サステナビリティ目標）を設け、実践につなげています。

› 重点課題と推進体制

環境マネジメント推進体制

キユーピーグループでは、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。環境面では、サステナビリティに向けての重点課題の課題の解決に向け、テーマごとに分科会・連携プロジェクトを設け、グループ全体への浸透と定着を図り、取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

キユーピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産71事業所中24事業所がISO14001認証を取得しています（2022年11月末現在）。

環境法規の遵守

キユーピーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

※2022年度は、関連法規等の違反や事故の発生はありませんでした。

環境監査

キユーピーグループは、関連法規等の遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況等についての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。この他、ISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や水、CO_2などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様がご使用された商品の容器包装は廃棄物になります。
そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キユーピーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キユーピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2022年度)

インプット

エネルギーの使用	購買電力	2,132 千GJ(223,017千KWh)
	燃料※1	1,192 千GJ
	エネルギー合計	3,324 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	8,075 千m^3

アウトプット

大気への排出	CO_2	168.3 千トン
	NO_x	38.5トン
	SO_x	8.1トン
水域への排出※2	排出量	6,110 千m^3
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	39.8 千トン(97.5%)

※1 発電燃料含む
※2 河川、公共下水道含む
対象:キユーピーグループ生産工場

› ESGデータ集

廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の削減目標

・総量および生産数量当たりの原単位　前年比減

キユーピーグループは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。
工場の主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。
2022年度は、キユーピーグループ工場での廃棄物排出量は、総量39.8千トンで前年度より4.3%減少、生産数量1トン当たりの廃棄物排出量(原単位)は52.4kgで前年度より3.0%減少となりました。
また、卵殻の肥料化や野菜未利用部を含む食品残さの社内再生による再資源化(堆肥化・飼料化)や、廃棄物等として外部に再資源化(堆肥化)を委託することで、工場で発生する廃棄物等の再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。
2022年度の再資源化率は97.5%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産71事業所中28事業所となっています。

廃棄物排出量※



対象:キユーピーグループ生産工場
※グループ内で再資源化している副産物を除く
※使用量・原単位の大幅な減少の主な原因は、サラダ・惣菜事業における一部事業売却による影響

地域への環境配慮

キユーピーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質等を管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーションなどは、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラーなどの燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導などを実施しています。

環境コミュニケーション

キユーピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

環境教育

キユーピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。
関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。
排水処理管理、廃棄物管理等の教育は定期的に実施しています。
各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

サステナビリティ

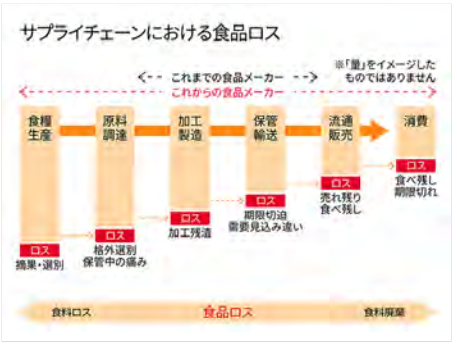
サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
環境マネジメント
食品ロスの削減・有効活用
プラスチックの削減・再利用
水資源の持続的利用
気候変動への対応
生物多様性の保全
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

食品ロスの削減・有効活用

食品ロスの削減・有効活用の考え方　食品ロス削減への対応　有効活用の推進

食品ロスの削減・有効活用の考え方

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キユーピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。
近年、気候変動により原料となる農作物などの収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。
キユーピーグループは、サステナビリティに向けた重点課題「資源の有効活用・循環」の取り組みテーマのひとつに食品ロスの削減・有効活用を掲げ、食品残さ削減、野菜未利用部の有効活用、商品廃棄の削減に注力して取り組んでいます。



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

食品ロス削減への対応

キユーピーグループでは、サプライチェーンの各段階でさまざまな工夫を重ね、グループ内で連携し、食品ロス削減を実現していきます。

製造における食品ロス対応

デリア食品では、お惣菜を製造する際に食品ロスを最小限に抑えるため、製造工程ごとに適正な原料や仕込みの量、適正な製品数、余分な廃棄ロス発生など、計量・確認するシステムを導入しています。
データ化することで、食品ロスの現状把握や要因分析、対策を行います。このサイクルを繰り返しながら、食品ロスを最小限にする取り組みを日々行っています。

商品における食品ロス対応

キユーピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。

開始時期	対象	内容
2022年9月	キユーピーあえるパスタソースシリーズ全品	「年月表示」に変更 賞味期間延長
2022年9月	キユーピー「やさしい献立」シリーズ31品	賞味期間を25カ月に延長
2022年6月	サラダクラブ「カットレタス」増量	生産体制の維持や産地廃棄（フードロス）削減への支援
2022年3月	サラダクラブ加熱用カット野菜「炒めるキャベツ」	業界最長クラス 消費期限7日間を実現（加工日＋7日間）
2022年2月	キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素シリーズ	「年月表示」に変更 賞味期間を12カ月から13カ月に延長
2022年	ポテトサラダなどの惣菜	冷圧フレッシュ製法®※による日持ち延長 ※食品を低温・高圧処理することで、より素材本来の食感や色味を残し、味わいを維持しながら日持ちを延長できる当社独自の技術
2019年4月	サラダクラブ 千切りキャベツ	消費期限を1日延長（加工日に加え5日間）
2019年3月	サラダクラブ「素材パウチ」シリーズの一部	賞味期間延長 「年月日表示」から「年月表示」に変更
2018年9月	キユーピー介護食「やさしい献立」シリーズ47品（賞味期間18カ月または12カ月の商品）	賞味期間延長 「年月日表示」から「年月表示」に変更
2016年1月	キユーピー マヨネーズ キユーピーハーフ	賞味期間を10カ月から12カ月に延長

商品廃棄の削減

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどです。各社各部門が連携するのはもちろんのこと、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

生産・販売・物流が連携したワーキンググループ

2015年より関係部署が集まり、月に1度のワーキンググループを開催しています。
ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。
この活動により、社内の食品ロス削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。
社内外の連携を進めて、サプライチェーン全体での商品廃棄の削減に取り組んでいきます。

食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。
野菜の外葉や芯などは捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守るために成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養や機能に優れている場合もあります。
料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたキャベツの芯、レタスの外葉、ブロッコリー茎の活用レシピをご紹介しています。

使わないのはもったいない！
野菜の意外な食べ方

キユーピーの一社提供番組「キユーピー３分クッキング」では、“簡単、便利、毎日の献立づくり”に役立つレシピを時代に合わせて提供しています。環境への配慮が日常的になってきたこともあり、番組でも「エコ」を取り入れていきます。
食材を無駄なく上手に活用する工夫や、省エネにつながるアイデアなど、毎日の料理に手軽に取り入れられる「エコ」なレシピをご紹介し、「エコ」に取り組むきっかけを提供していきます。

「プラスエコ」ロゴ

有効活用の推進

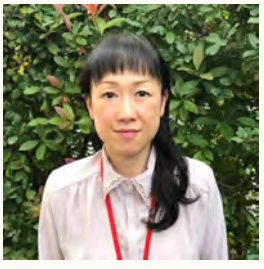
キユーピーグループは、ステークホルダーとの協働により、さまざまな取り組みを進め食資源の有効活用に取り組んでいます。

食品残さを活用したバイオガス発電※の取り組み

キユーピーグループでは、多品種のマヨネーズを製造する工程で、異なる商品の製造への切り替え時に、配管から排出されるマヨネーズなどの食品残さが発生します。製造過程で発生する食品残さをバイオガス発電へ活用することに成功しました。
この取り組みは、キユーピーの五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場、およびグループ会社の株式会社ケイパックで行っています。

※バイオガス発電とは、養豚農家で出る家畜の排泄物と食品残さを混合してメタン発酵後、そこで生成されたバイオガスを利用して発電する仕組み。

生産現場では、“夢多゛採り（むだどり）活動”と呼ばれる改善活動の一環で、食品ロス削減にも積極的に取り組んでいます。
日々食品ロス発生を抑制する努力を続けると同時に、未来につながる資源の活用や循環を考え、環境へのマイナス要素をプラスに変えていく努力を各工場がけん引し、グループ従業員の協力を得て推進していきます。



キユーピー株式会社
生産本部 兼 経営推進本部
松原 由紀

野菜未利用部の有効活用

キユーピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

葉物野菜の未利用部

2017年度、カット野菜工場のグリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキユーピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。
また、サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表



キャベツ未利用部の有効活用

- 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キユーピーグループが内閣総理大臣賞を受賞
- 第6回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞
- サラダクラブ サステナビリティ

じゃがいもの未利用部

デリア食品グループの旬菜デリ 昭島事業所では、ポテトサラダの製造工程で発生するじゃがいもの皮（ポテトピール）やトリミングくずの部分を、特殊な技術を活用して液状にして、養豚向けの飼料にしています。
この技術は、養豚業界の課題である国産の安全な飼料の生産や安定流通につながり、食品残さを使った循環型社会の構築にも貢献しています。



じゃがいも未利用部の有効活用

- デリア食品 サステナビリティ

卵の100%有効活用

キユーピーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。
「キユーピー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの菓子の食品原料として使われます。
また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用しています。卵殻膜は、化粧品などへの高度利用に取り組んでいます。



卵の有効活用

- 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰キユーピーグループが農林水産大臣賞を受賞
- 第7回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞

卵殻は米を強くし、ヒトの骨も強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓准教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稲への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい※ため、将来的には、キユーピーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。
また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売とあわせ学校や病院への啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率 参照

メッセージ
卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞一つ一つを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性を持つと考えられています。その生理活性の一つとして、カルシウムは高温ストレス時に籾の中へとお米を充填する重要な役割を担っています。カルシウムを多量にふくむ卵殻は、地球規模で気候変動が生じる中、稲の夏バテを防いでおいしいお米を安定的に供給する農業資材として期待できます。



東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壌肥料学研究室
准教授 加藤 拓

卵殻膜の機能

キユーピー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリの素となるIII型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キユーピー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢(ようかつす)」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちます。
食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

› お酢と卵でできた葉活酢 キユーピー醸造

卵殻活用のあゆみ

1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始
1969年 卵殻の破砕・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現)
1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
2007年 卵殻を建築材や日用雑貨(壁紙、タイヤなど)の原料として発売
2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始
2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売
2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞
2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞
2021年 「卵の有効活用」動画がサステナアワード2021にて「みどりの食料システム推進賞」を受賞

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
  - 環境マネジメント
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
  - 気候変動への対応
  - 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

プラスチックの削減・再利用

プラスチック削減・再利用の考え方　キユーピーグループ プラスチック方針
容器包装設計でのプラスチック削減　製造・流通でのプラスチック削減

プラスチック削減・再利用の考え方

キユーピーグループは、食品の容器包装などにプラスチックを使用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。
キユーピーグループでは、プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来のバージンプラスチック使用量削減、および資源循環に向けた取り組みを進めています。

キユーピーグループ プラスチック方針

キユーピーグループでは、2019年に「キユーピーグループ プラスチック方針」を策定し、事業活動で使用するプラスチックの削減などの取り組みを加速させ、循環型社会の構築に貢献することをめざして取り組みを推進します。

※2022年改訂

キユーピーグループ プラスチック方針

3R+Renewableを実施し、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- 開発段階から環境配慮設計を行います。
- バリューチェーン全体で協力し推進します。

今後推進していく主な取り組み

- 軽量化を主体としたプラスチック使用量のさらなる削減
- 再生プラスチック、およびバイオマスプラスチックの導入
- 分別しやすい容器包装設計
- プラスチックの回収・再生を推進する業界の取り組みに参加


マヨネーズ容器の軽量化


ドレッシング容器の軽量化


再生プラスチックを外装に使用


再生プラスチックを含む容器を採用

容器包装設計でのプラスチック削減

商品の容器包装は、商品の品質やおいしさを保つためには欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。
「容器包装選定の基本方針」のもと容器包装の軽量化・簡素化やバイオマス素材、再生材などの開発を進め、環境負荷が少ない包材の採用を推進しています。

容器包装の軽量化・簡略化

開始時期	対象	内容
2022年3月	キユーピー ベビーおやつ 野菜入り ソフトおせんべい	外装・個包装・トレーの資材を変更し、プラスチック使用量 を35%削減。さらに材質を単一素材に変えることで、リサイクルのしやすさにも配慮
2022年2月	サラダクラブ パッケージフィルム	パッケージサラダに使用するフィルムの寸法の縮小化や薄肉化などの規格変更
2022年1月	サラダクラブ パッケージサラダトレー	パッケージサラダに使用するトレーを、従来品と比較して、約10%軽量化
2021年3月	キユーピー「すまいるカップ」シリーズ、「やさしい献立」	上部に付いていた外蓋をなくすことで、使用するプラスチック量を削減
2021年3月	キユーピー ベビーおやつ たまごたっぷりぼうろ	外装、内装でのプラスチック使用量を約25%削減
2019年4月	キユーピー ドレッシング 380ml	ボトルの強度を落とさない工夫を施すことで、従来のボトルの形状イメージを損なうことなく軽量化

環境負荷の少ない包材の採用

開始時期	対象	内容
2022年8月	ヴェルデ トーストスプレッドシリーズ	容器のラミネートチューブに使用している素材の厚みを薄くすることで、プラスチック使用量を約10.9%削減
2022年8月	「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ	植物由来のプラスチック※を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用 ※ 植物由来のプラスチック：再生可能な有機資源（サトウキビの副産物などの植物）を原料に使用したバイオマスプラスチック
2021年6月	キユーピー テイスティドレッシング	再生プラスチック※を含む容器を使用 ※ 主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉砕、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル（物理的再生法）」で再生したプラスチック。
2020年2月	キユーピー ドレッシング スティックタイプ	外装に再生プラスチックを約15%使用

製造・流通でのプラスチック削減

キユーピーグループでは、商品容器包装でのプラスチック削減以外にも、調達から製造、流通、消費に至るまでのバリューチェーン全体で排出されているプラスチックの削減に向けた取り組みを行っています。

商品流通容器のリサイクル

液卵用プラスチック容器

キユーピータマゴでは、液卵などの卵製品を入れるプラスチック容器をリサイクルし、リサイクルした再生品を使用する取り組み※を行っています。今まで廃棄していたプラスチック容器がリサイクルされることで、廃プラスチックの削減につながっています。

※2020年より開始



左：リサイクル品　右：既存品

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
  - 環境マネジメント
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
  - 気候変動への対応
  - 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

水資源の持続的利用

水資源の持続的利用の考え方　水リスク・水ストレスの評価　水資源の効率的活用　節水の取り組み

水資源の持続的利用の考え方

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。
キユーピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。
事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組みます。

水リスク・水ストレスの評価

キユーピーグループにおける水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(World Resources Institute)のAqueductを用いて水ストレス(水需要の逼迫の程度)を評価しています。
国内における洪水・高潮による浸水リスクはハザードマップ、海外における洪水・高潮による浸水リスクはAqueductを通じて評価しています。

	事業所数	洪水リスク	高潮リスク	水ストレス
日本	71	26	4	0
中国	4	1	2	1
アジア	4	2	1	0
米国・欧州	2	0	0	1

ハザードマップ調べ、Aqueduct調べ

水資源の効率的活用

キユーピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。
2022年度のキユーピーグループ工場の水使用量は、総量8,075千m^{3}でした。
生産量1トン当たりの水使用量(原単位)は10.6m^{3}となりました。



節水の取り組み

キユーピーグループは、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

高度処理水の利用

デリア食品グループでは、生産工程での節水活動として、水使用量の見える化やデータ化を行い、現状把握、要因分析、対策により水使用量を最小限にする取り組みを行っています。
さらに旬菜デリ昭島事業所では、生産ラインからの排水の再利用を行うため、膜処理(RO)技術を活用した設備を導入し、排水から平均160トン/日の純水を再生して、加工場内トイレのほかに、樹木への散水、床の洗浄、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。



逆浸透膜(RO)ろ過装置

冷却水の有効活用

キユーピー醸造では、ビネガー生産時に使用した冷却水をそのまま工場外部へ排出せずに、別途温度帯の冷却水として使用することで冷却水の使用量削減を行っています。



過剰給水の抑制

サラダクラブでは、カット野菜の洗浄などで使用する水を常時給水から必要時給水に変更し、さらに過剰給水を抑制するなど管理を徹底することで使用量の削減を行っています。



サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
環境マネジメント
食品ロスの削減・有効活用
プラスチックの削減・再利用
水資源の持続的利用
気候変動への対応
生物多様性の保全
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

気候変動への対応

気候変動対応への考え方　TCFDへの取り組み　生産における取り組み
物流における取り組み　オフィスにおける取り組み

気候変動対応への考え方

キユーピーグループでは気候変動の原因となるCO_2排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスのバリューチェーン全体において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。
キユーピーグループのサステナビリティにおける重点課題「CO_2排出量削減（気候変動への対応）」への取り組みでは、国内グループでCO_2排出量削減目標を設定して、気候変動への対応をさらに推進していきます。

CO_2排出量の削減

気候変動の進行を受けて、CO_2排出削減目標を見直し、上方修正しました。
更なるCO_2排出削減のため、グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を検討しています。
物流では長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフト、異業種メーカーとの共同輸送を積極的に推進しています。
オフィスにおいてもAIなど新技術を活用したエネルギー使用の最適化に取り組んでいます。
また、サプライチェーン全体でのCO_2排出量の算定を進め、その削減を推進します。

› 重点課題と推進体制

CO_2排出量



対象：国内グループ生産工場、オフィス
ただし、排出量原単位は、国内グループ生産工場

再生可能エネルギーの活用

キユーピーグループでは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。キユーピー神戸工場は、屋上に太陽光発電のスペースを設け、関西電力株式会社が設置と管理を行う「オンサイトPPAモデル」で運用を開始しています。2022年12月からは、関西電力株式会社による再生可能エネルギーメニューでの電力供給と、三井物産株式会社からの供給燃料（蒸気）で発生するCO_2相当のJ-クレジット※の購入により、実質再生可能エネルギー由来100%へ切り替えることができました。この取り組みにより、キユーピーグループで初のネットゼロ工場が実現し、年間約3,680トンのCO_2排出量が削減できる見通しです。
また、2022年8月には、キタカミデリカが太陽光発電のスペースを提供し、株式会社Looopが設置と管理を行う「オンサイトPPAモデル」で運用を開始し、同工場での総電力使用量の5.3%を発電することで、年間約85トンのCO_2排出量削減を見込んでいます。
さらに2023年2月頃には国内3拠点での太陽光パネルの設置を予定しており、今後もグループのオフィスや生産拠点における使用電力を積極的に再生可能エネルギーに転換していきます。

※J-クレジット制度とは、温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度。

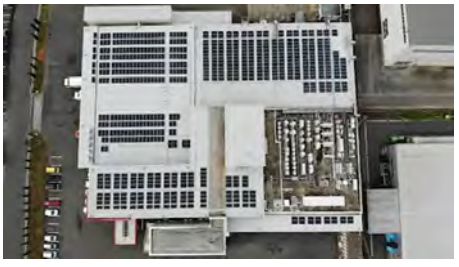
設置状況 −

設置時期	拠点名
2023年 2月頃予定	キユーピータマゴ 尾張工場 キユーピータマゴ 三田工場 サラダクラブ 遠州工場（追加パネル設置）
2023年 1月	キユーピーマレーシア
2022年 8月	キタカミデリカ（オンサイトPPAモデル）
2022年 2月	キユーピー 神戸工場（オンサイトPPAモデル）
2021年12月	北京丘比
2021年12月	キユーピーベトナム
2021年11月	旬菜デリ 青梅工場
2021年 2月	キユーピータマゴ 飯能工場
2020年 4月	旬菜デリ 昭島工場
2018年 4月	キユーピータイランド
2016年12月	キユーピー 五霞工場
2016年 2月	サラダクラブ 遠州工場
2015年 9月	富士吉田キユーピー※
2015年 1月	グリーンファクトリーセンター白河
2014年 4月	キユーピー醸造 滋賀工場
2013年10月	仙川キユーポート
2013年 4月	ケイパック 本社工場
2012年 3月	キユーピー ファインケミカル本部五霞工場

※富士吉田キユーピー：2021年に株式会社はくばくへ事業譲渡しました。その敷地内にキユーピーが設置した太陽光パネルは、現在もキユーピーが保有管理を継続しています。



キユーピー神戸工場屋上に設置した太陽光パネル



キタカミデリカ屋上に設置した太陽光パネル

TCFDへの取り組み

キユーピーグループの事業は、自然の恵みに強く依存しているため、原材料の収量の減少や品質の低下など、気候変動によるさまざまな影響を受ける可能性があります。今後の気候変動に関連する事象を、経営リスクとして捉えて対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略へ活かしていきます。

キユーピーグループは、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）※1」へ賛同し、これに賛同する企業や金融機関等が連携する場としての、「TCFDコンソーシアム※2」に参画しました。
キユーピーグループ内で「TCFDプロジェクト」を発足し、2021年からTCFDに取り組んでいます。

※1 G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨しています。
› TCFD ウェブサイト
※2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関等が取り組みを推進しています。
› TCFD コンソーシアムウェブサイト

2021年度TCFD報告（566KB）

2022年度TCFD報告（497KB）

生産における取り組み

生産部門のCO_2排出削減

キユーピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO_2排出削減に努めています。

生産部門の省エネルギーの推進

キユーピーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見える化」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器を導入し省エネルギー化を推進しています。

生産部門の省エネルギー削減目標

エネルギー使用量　前年対比1%以上の削減

2022年度のキユーピーグループ生産工場のエネルギー使用量は熱量換算で3,323千GJで前年度より1.3%減少しました。生産量1トン当たりのエネルギー使用量(原単位)は熱量換算で4.37GJとなり、前年度と同程度に推移しています。
使用量・原単位の減少の主な原因は調味料事業の工場再編による効率生産とタマゴ事業の事業再編による効率生産および各事業での計画的な省エネ型の設備更新によります。



対象：キユーピーグループ生産工場

自然冷媒冷凍機の活用

キユーピーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO_2削減と脱フロンを実現しています。



アンモニア冷凍機

設置状況 −

設置時期	拠点名
2021年	キユーピータマゴ 尾張工場
2020年	キユーピータマゴ 伊丹工場
2018年	キユーピー 中河原工場
2015年	キユーピータマゴ 筑波工場

物流における取り組み

キユーピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。
輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつながるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替（モーダルシフト）を推進して、CO_2排出削減を実現しています。
キユーピー商品の輸配送によるCO_2排出量は、2022年度20.6千トンで前年比6.0%減となりました。

輸配送によるCO_2排出量

		2021年度	2022年度	前年度比
キユーピー販責商品	輸配送量（千トンキロ）	138,443	128,385	-6.0%
	CO_2排出量（トン）	21,924	20,598	-6.0%

モーダルシフトの推進

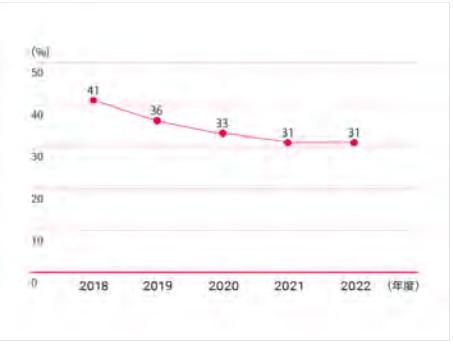
専用31フィートコンテナ10基（うち冷凍コンテナ4基）を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト※1を推進しています。
キユーピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。
モーダルシフト化率※2は、2022年度31%となっています。

※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること
※2 モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率

› 国土交通省「エコレールマーク」のご案内



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移

異業種での共同輸送の取り組み

キユーピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。
加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO_2削減の効果を高めています。この取り組みは外部から高く評価され、平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議優良事業者表彰において「国土交通大臣表彰」をいただいています。

› 平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞

オフィスにおける取り組み

2022年2月よりグループ3拠点（グリーンファクトリーセンター白河・富士吉田キユーピー※1・サラダクラブ 遠州工場）の太陽光パネルで発電された環境価値（トラッキング付FIT非化石証書※2）付きの電力を、東京電力エナジーパートナー株式会社を通して日本卸電力取引所から調達し、渋谷本社と仙川キユーポートの使用電力へと振り替え実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。この取り組みにより、年間約1,600トンのCO_2排出量が削減できる見通しです。

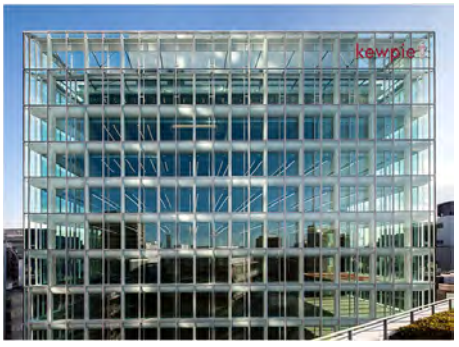
※1 2021年に株式会社はくばくへ事業譲渡しました。その敷地内にキユーピーが設置した太陽光パネルは、現在もキユーピーが保有管理を継続しています。

※2 非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であることの価値」を証書化したものです。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められています。

渋谷オフィスでの取り組み

キユーピーグループの渋谷オフィス（渋谷董友ビル）は、ビル全体を2重のガラスが覆い（ダブルスキン）、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業※に採用されています。



2重ガラスが覆う（ダブルスキン）外観

※グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業：環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キユーポートでの取り組み

仙川キユーポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コジェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キユーポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社との協働により、クラウドサーバー上のAIを利用して、気象予報データと空調器（冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電）の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証し、運転の自動化に向けて、さらなる取り組みを進めています。


自然換気システム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
  - 環境マネジメント
  - 食品ロスの削減・有効活用
  - プラスチックの削減・再利用
  - 水資源の持続的利用
  - 気候変動への対応
  - 生物多様性の保全
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

生物多様性の保全

生物多様性保全の考え方　キユーピーグループ 生物多様性方針
調達における生物多様性保全への配慮　キユーピーグループの環境保全活動

生物多様性保全の考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループ 生物多様性方針

キユーピーグループは原材料を生み出す豊かな自然に感謝し、生物多様性の保全と生態系の回復、再生に努めネイチャー・ポジティブをめざします。

1. 生物多様性への依存と影響をバリューチェーン全体で把握します。
2. 把握した依存と影響を経営判断に活かし、情報の開示に努めます。
3. 生物多様性への負の影響を最小限に抑え、同時に生態系を回復、再生する活動を積極的に行います。
4. ステークホルダーの皆様との対話と協働により、バリューチェーン全体で生物多様性保全の取り組みを推進します。

調達における生物多様性保全への配慮

「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

パーム油

2018年にRSPO※へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。
※RSPO：持続可能なパーム油のための円卓会議

紙

段ボール・紙器メーカーとの協働で、適切に管理された森林木材を使用したFSC認証材の導入を進めています。

› 持続可能な調達の推進

キユーピーグループの環境保全活動

「自然環境の保全の考え方」のもと、キユーピーグループでは長年に渡り環境保全活動を行ってきました。
2007年9月から2020年3月までは、やまなし森づくりコミッションに参画し、山梨県富士吉田市の富士北麓にある森林「キユーピーの森」で、水源涵養を目的とした森林保全活動を行いました。
従業員とその家族から参加者を募り、地元のNPO法人の方々と間伐・植樹活動を中心に、周辺環境が抱える諸問題について学ぶ講座も開設し、活動を通じて自然環境や生物多様性の理解を深めるきっかけとなりました。
また、2014年から2019年まで、ラムサール条約に登録され国内3番目の面積をもつ霧多布湿原において、湿原を中心とした保全活動を行うとともに認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの活動を資金面で支援してきました。
今後は、キユーピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代に繋げる、よりよい活動をめざします。



環境講座の様子



木道整備の様子

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
  - 持続可能な調達の推進
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

持続可能な調達

「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。大切な原資材料は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。サプライチェーン上における社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、持続可能な調達のための基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進	



持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針とお取引先との協働による取り組みを紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
  - 持続可能な調達の推進
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針　キユーピーグループのサプライヤーガイドライン
鶏卵の調達に関する考え方と取り組み　持続可能な野菜の調達
持続可能なパーム油の調達　持続可能な紙の調達　アヲハタによる果実生産者との取り組み

持続可能な調達のための基本方針

「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、持続可能性を高め、良い原料を調達できることにつながると考えます。

1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響も考慮した管理を行う。
7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

キユーピーグループのサプライヤーガイドライン

「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」の実現に向けて、キユーピーグループの調達先である大切なお取引先（お取引先を含めたサプライヤー全体を指します）へお願いすることとして「キユーピーグループのサプライヤーガイドライン」を定めます。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン（519KB）

鶏卵の調達に関する考え方と取り組み

基本的な考え方

キユーピーグループは、品質や環境に及ぼす影響や人権への配慮とともに、採卵鶏のアニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。
キユーピーグループは、国際獣疫事務局（OIE）が示したアニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」※に賛同し、その原則に沿った採卵鶏の飼養が重要であると考えます。また、鶏卵をビジネスの源として利用しているからこそ、採卵鶏の命の尊厳についても適切な配慮をするべきであると考えます。

※アニマルウェルフェアの基本原則「 つの自由」

- 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
- 恐怖及び苦悩からの自由
- 物理的、熱の不快さからの自由
- 苦痛、傷害及び疾病からの自由
- 正常な行動様式を発現する自由

取り組みについて

日本国内でキユーピーグループが調達している鶏卵は、農林水産省が普及に努める『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』※1に即して飼養された鶏の卵であることを確認しています。
また、ケージフリー飼養※2による鶏卵を活用した商品を開発・製造販売しており、お客様のニーズや価格受容性を把握しながら商品の育成を進めています。
日本における持続可能な採卵鶏の飼養管理のあり方を行政や養鶏に関わるサプライチェーンのパートナー、ならびに学識経験者・有識者、NGO・NPOなどの関係者と議論・連携しながら、キユーピーグループにおけるアニマルウェルフェア向上への取り組みを進めています。
なお、海外においては、各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。※3

※1 公益社団法人 畜産技術協会による『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』第5版（令和2年3月）
※2 いわゆる平飼いなどの飼養方法
なお、前出の『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』では、アニマルウェルフェアへの対応において、最も重視されるべきは、施設の構造や設備の状況ではなく、日々の家畜の観察や記録、家畜の丁寧な取り扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、家畜が健康であることであり、そのことを関係者が十分認識して、その推進を図っていく必要がある、とされています。
※3 米国内での事業における鶏卵調達の取り組みは、以下のリンクをご参照下さい。

› 米国での鶏卵調達の取り組み

持続可能な野菜の調達

キユーピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキユーピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

循環型農業の構築

サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。
契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最低限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができ、「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。


契約産地での堆肥散布の様子

サラダクラブによる産地表彰式



サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。
安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。
毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club（グロワー・オブ・サラダクラブ）」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています。
一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や肥料にし、肥料は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。

持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。
こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キユーピーグループは、2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキユーピーグループで調達するパーム油についてRSPOのブックアンドクレーム方式※1による認証クレジットの購入を開始しました。2021年までにキユーピーグループで調達するすべてのパーム油について認証クレジットの購入を完了させるという目標を完了し、2022年からはブックアンドクレーム方式とマスバランス方式※2での認証油の調達に取り組んでいます。

※1 ブックアンドクレーム方式
RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット（証券）を発行。
その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

※2 マスバランス方式
認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。
物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

› ESGデータ集

持続可能な紙の調達

原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組みます。
そのため、森林認証紙(FSC®認証※など)を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

取り組みについて

FSC認証紙の使用

ベビーフードの『にこにこボックス』シリーズは、2019年3月よりFSC®認証紙の使用を開始しました。さらに箱の設計を変更し、トレーやパペットになる新たな機能※を付けることで、食育の1つである楽しい食体験の提供と同時に紙の大切さをお伝えしています(FSC® N002978)。

※トレー:片手で2カップを安定して持てる、パペット:パッケージの動物をパクパクさせ、赤ちゃんに噛むことを促すことが出来ます。



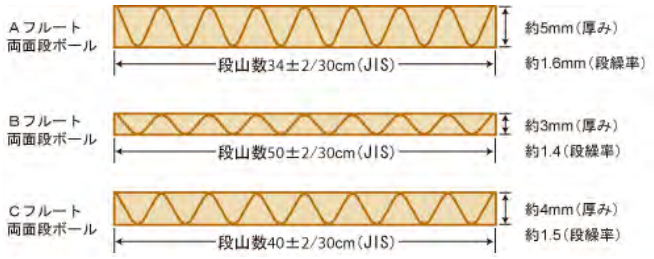
外箱をトレーとして使用



外箱をパペットとして使用

段ボール構造の工夫

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を活かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。これにより段ボールの使用量を年間約590トン削減しました。



カートン形状の工夫

アヲハタでは、55ジャムUD150シリーズ・カロリーハーフシリーズに「シェルフレディーパッケージ」を採用し、年間約56トンのカートン削減に加え、2022年には、ヴェルデトーストスプレッドシリーズに使用するカートンのライナー※を変更し、従来の強度を保ったままカートンの軽量化とカートン製造時のCO_2排出量削減を実現しました。

2022年度年間使用枚数	138,000枚
軽減重量	2,500kg/年
カートン製造時CO_2削減量	1,800kg/年

※ ライナーとは、段ボールの表面・裏面に使用される段ボール原紙

パッケージの省資源の取り組み

「アヲハタ ５５ジャム」(小容量)カートン※

カートンのフラップ寸法の変更を実施しました。結果、年間約14トンの省資源となり、段ボールメーカーの二酸化炭素排出量を11トン-CO_2／年削減しました。

※ 2015年から開始



▲変更前　▲変更後

同時に、簡単に開封・陳列できる「パカっとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。



アヲハタによる果実生産者との取り組み

キユーピーグループで使用する果実の原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。
「農産加工品の美味しさは、その原料によって7割が決まる」という考え方に基づき、生産者との信頼関係構築と、栽培技術の研究を進めながら高品質原料の安定確保に努めています。

› アヲハタ　社会・環境への取り組み

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
  - 人権尊重への取り組み
  - 多様な人材の活躍
  - 健康経営・労働安全衛生
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

人権の尊重

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、キユーピーグループに関わるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、それぞれの視点やノウハウを活かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めるとともに、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、キユーピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キユーピーグループ 人権方針」を推進	



人権尊重への取り組み

国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。



多様な人材の活躍

多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切にし、ダイバーシティの推進をはじめとした取り組みを行っています。



健康経営・労働安全衛生

キユーピーグループで働く一人ひとりの健康と安全のため、さまざまな取り組みを推進しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
人権尊重への取り組み
多様な人材の活躍
健康経営・労働安全衛生
ガバナンス
安全・安心
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

人権尊重への取り組み

キユーピーグループ 人権方針　人権マネジメント体制
人権デューデリジェンスプロセスの実行　従業員への取り組み
サプライヤーへの取り組み

キユーピーグループ 人権方針

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キユーピーグループ人権方針」を定めます。
社是である「楽業偕悦」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キユーピーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

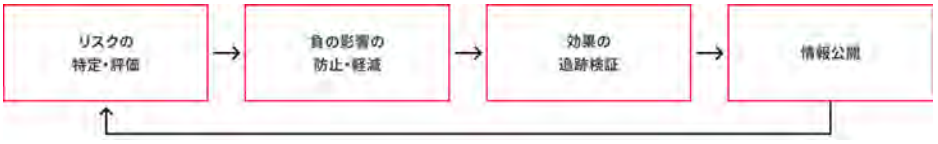
キユーピーグループ人権方針（361KB）

人権マネジメント体制

キユーピグループのバリューチェーンでの幅広い人権リスクに向き合うために、サステナビリティ重点課題に「人権の尊重」を掲げ取り組んでいます。
抽出された人権リスクについては、サステナビリティ委員会にて取り上げ、関連する委員会や部門と連携し、対応策の計画や実施を行っています。
また内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。

人権デューデリジェンスプロセスの実行

キユーピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うための実行プロセスとして、人権デューデリジェンスの枠組みに沿って取り組んでいます。



特定された人権リスクのうち、対象をグループ従業員やサプライヤーにおけるものを項目として、それぞれの是正に向けて取り組むこととしました。

人権に関する国際規格や国際基準からキユーピーグループのバリューチェーンに関わる人権リスクとして、下記のリスクを抽出しました。

- ハラスメント
- 差別対応
- 差別的表現
- 労働安全衛生
- 強制労働
- 児童労働
- 労働時間
- 結社の自由
- 賃金の不足・未払い
- 教育・研修の不足
- プライバシーの権利
- 居住移転の自由
- 表現の自由
- 先住民・地域住民の権利
- 知的財産権
- 消費者の安全と知る権利
- 贈賄・腐敗
- サプライヤー管理の不徹底

従業員への取り組み

さまざまな方が働いている環境であることから、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境の実現をめざしています。コンプライアンスに対する理解・意識状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的とした全従業員を対象の「従業員意識調査」を2年毎に実施しています。アンケート結果を従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、従業員の啓発活動や研修等に反映させています。

ヘルプラインの運用

- 2022年度のヘルプラインへの通報・相談件数は28件でした。
- 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備等に関するものがありました。
  会計や品質などの不正に関するものはありませんでした。
- 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導等により是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

› ESGデータ集

サプライヤーへの取り組み

キユーピーグループは「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、サプライチェーンでの環境や人権に配慮する必要があるとし、このことをお取引先と一緒に取り組むとしています。
2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づいた調達を行っています。2022年4月にお取引先へのガイドラインとして、「キユーピーグループのサプライヤーガイドライン」を策定しました。今後はサプライヤーへのアンケート実施、引き続きのコミュニケーションを通じて、サプライチェーンでの人権リスク低減に努めます。

› 持続可能な調達の推進

キユーピーグループ サプライヤーガイドライン（519KB）

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
  - 人権尊重への取り組み
  - 多様な人材の活躍
  - 健康経営・労働安全衛生
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

多様な人材の活躍

ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組み　人材育成への取り組み　フレキシブルな働き方への取り組み

ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組み

キユーピーグループにおけるダイバーシティ&インクルージョンの考え方

キユーピーグループでは、ダイバーシティ&インクルージョンを「成長戦略の土台」と位置付け、すべての従業員が多様な価値観を持つダイバーシティの担い手であることを前提に、属性と能力の多様性の双方を生かすことで、グループ全体の成長と、社会に対する価値の創出と貢献をめざしています。
会社や従業員同士の理解や対話を大切にするとともに、ダイバーシティ&インクルージョンを理解し体感できる機会づくり、多様な従業員の活躍につながる場づくり、成長実感を持てるキャリアや学びの仕組みづくりなどを通して、世界で働く従業員一人ひとりの個性や成長する意欲と、個々の能力を最大限に発揮できる企業風土づくりに取り組んでいます。

新たな価値を創出する企業風土の醸成

従業員一人ひとりのさまざまな視点・能力・スキルが新たな価値を生み、グループ全体の総合力向上につながるよう、ダイバーシティ推進の理解を図るとともに、多様性を発揮できる仕組みづくりや、グループ人材の流動化に取り組んでいます。またキユーピー単体を対象に2017年からダイバーシティ・アンケートを実施し、従業員のダイバーシティに対する理解度や意識を確認し、施策の検討や効果検証に生かしています。
さまざまな取り組みを通じ、心理的安全性が高く、目標に向かってチャレンジできる企業風土づくりに努めています。

ダイバーシティ・セミナーや勉強会の実施

グループ従業員が参加できるダイバーシティ・セミナーや、部署や組織毎に開催するダイバーシティ勉強会を実施しています。ダイバーシティ推進の方向性や目的を共有することで、従業員の意識を合わせ、推進の加速化を図っています。

多様な人材が重要な意思決定の場に参画

重要会議に参加するメンバーの20%以上を多様な人材（年代・性別・スキル・キャリア）から構成し、これまでと異なる視点から意見を引き出し、議論の活性化を図る取り組み「KEEP20」を展開しています。従来の参加メンバーにとっては新たな気づきが得られ、多様な参加メンバーにとっては、経営情報や事業判断に触れる学びの機会となっています。2022年は13の重要会議にて実施し、徐々にグループ内に展開しています。

多様なメンバーと経営層による意見交換を実施

業務や組織の枠を超えた多様なメンバーが、目的やテーマを共有して会話をする意見交換会を「シャッフル・ミーティング」として実施しています。取り組みは、2020年からスタートし、これまでに、グループの500名以上が参加しました。日頃、それぞれの場所でグループの業務に尽力する多様な仲間が、経営層も交えてオンラインで集いコミュニケーションをとっています。異なる視点で意見を伝えあい、認め合い、考えることで、参加者全員が新鮮な気づきを得るとともに、従業員同士のネットワークを構築する場となっています。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

女性従業員の活躍に向けて

2022年度のグループ女性管理職比率は10%、キユーピー単体での女性管理職比率は12.5%です。グループの約半数を占める女性従業員が十分に活躍できるよう、女性総合職の育成や、転居を伴う異動のない総合職制度の導入、地域職から総合職への転換などを進めています。人事制度や労務制度に加えて、マネジメントや風土もあわせて変えていくことで、意欲ある女性従業員が働き続けられる会社をめざしています。

人材活躍の重要指数	2022年度 実績	2024年度 目標	2030年 目標
女性管理職比率 （キユーピー単体）	12.5%	18%	30%

グループ女性管理職勉強会の開催

グループの女性管理職自身が事務局を務め、経営層や外部識者による講義や必要な知識を学ぶ勉強会を開催しています。それぞれが管理職としてのありたい姿やステップ、自分なりのマネジメントを描き、行動することをめざしています。また、メンバー同士がディスカッションを重ねることで、グループにおける女性管理職のつながりも生まれています。





障がい者雇用の考え方

キユーピーグループでは、障がいのあるなしに関わらず、一人ひとりの能力や個性を大切にし、働く悦びややりがいを実感できる環境づくりをめざしています。
こうした考え方のもと、障がい者雇用においてはグループ適用を行わず、キユーピー単体、キユーピーあい（特例子会社）を含むそれぞれが各地域で雇用を行うことで、地域社会での多様な雇用創出につなげています。

障がい者雇用率の推移（2022年12月1日現在）

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
3.54%	3.60%	3.67%	3.76%	3.73%

グループ各社における取り組み

キユーピーあい（特例子会社）では、館内物流をはじめ、清掃業務や販促物の作成・発送など多岐にわたる業務を担っており、障がい者雇用率は3.33%（キユーピー単体＋キユーピーあい：2022年12月1日現在）となっています。
また、障がい者の雇用、定着支援にとどまらず、地域や社会への貢献も積極的に取り組んでいます。具体的には、障がい者就労に向けた実習の受け入れや小学校のユニバーサルデザイン授業への講師派遣、特別支援学級での交流や会社見学を行っています。

グループ各社では、キユーピータマゴが全国22カ所の工場で積極的に障がい者雇用を行っていて、障がい者雇用率は5.69%となっています。

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キユーピーグループでは一人ひとりのキャリアに真剣に向き合い、ダイバーシティを実現していくため、専門研修や、自己啓発プログラムの充実に加え、以下のような各種キャリア支援制度を実施しています。

1.成長マイルストーン制度（対象：キユーピー総合職）

2.キャリア自己申告制度

3.社内公募制度

従業員それぞれの「ありたい姿」や「成長の道筋」を明確にすることで、成長のための学びと、人事交流などの必要な経験を積むことを促進していきます。
具体的な仕組みとして、「成長マイルストーン制度」や「キャリア研修」を設け、これに加えて自らの異動希望を申告できる「キャリア自己申告制度」があります。
さらに、挑戦意欲の高い人をキユーピーグループ内から幅広く募集する「Kewpie Startup Program」を実施し、これまで新規事業や強化したいテーマを対象として、強い想いを持った応募者の中から選出してきました。
一人ひとりのポテンシャルの発揮や、想いを実現するこれらのキャリア支援の取り組みを通じて、適材適所はもとより、挑戦する風土を醸成し、多様な人材がさらに活躍できる状態をめざしていきます。



キユーピーキャリア支援体系図

褒賞制度

キユーピーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒賞制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキユーピーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。
論文の執筆を通した自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社がともに成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キユーピーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築くことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

ビジネスモデル	内容
酢酸菌酵素を配合したサプリメント「よいとき」	ビジネスモデル公募制度の第一号商品。キユーピーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌酵素を配合したサプリメント。
機能性表示食品「ディアレ」	酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメント。 酢酸菌GK-1は、花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感を軽減することが報告されています。鼻の不快感の原因物質として「花粉」の表示が認められた機能性表示食品は「ディアレ」が初めてです。
GABAポテトサラダ	惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」。 血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されているGABAを配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。
› 深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム	埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」をコンセプトとする複合型施設を開業。



「Kewpie Startup Program」から生まれた商品





深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム イメージ図

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キユーピーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。
時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。
上司には、育児復帰者に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。
また、育児経験を通して視野を広げ、自己成長につなげるために、男性従業員の育児休業取得を促進しており、それぞれの状況に合わせて選択し、取得いただける制度を整えています。



育児休業のしおり



育児支援サイト

従業員パパのための離乳食教室

2022年に渋谷、仙川で勤務されているグループ従業員を対象に「パパのための離乳食教室」を開催しました。
離乳食「初期コース」と「中後期コース」から選べ、離乳食の基本知識を学ぶ座学、離乳食づくりの実践、試食、参加者同士の交流という内容となっています。
参加者からは「家に持ち帰って活用できる情報が多かった」「父親の育児参加を促す後押しになる」などの声がありました。


参加した従業員パパの様子

育児休業取得状況

女性従業員

・当年に育児休業を取得している人数
（対象：キユーピー単体）



男性従業員

・取得者数：子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
・取得割合：子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
（対象：キユーピー単体）



› ESGデータ集

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
  - 人権尊重への取り組み
  - 多様な人材の活躍
  - 健康経営・労働安全衛生
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

健康経営・労働安全衛生

健康経営への取り組み　労働安全衛生への取り組み

健康経営への取り組み

キユーピーグループ健康宣言

キユーピーグループは、サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援し、社会から期待され必要とされるグループをめざします。
グループで働く従業員が、心も体も健康にいきいきと企業活動を続けることが、事業の発展と社会への貢献につながると考えています。
これからも食を通じて皆さまの健康に貢献するとともに、企業が従業員一人ひとりの健康に配慮することで、従業員とその家族の健康に真剣に向き合い支援し続けていきます。



› 社外からの評価

1.サラダとタマゴを通した健康増進

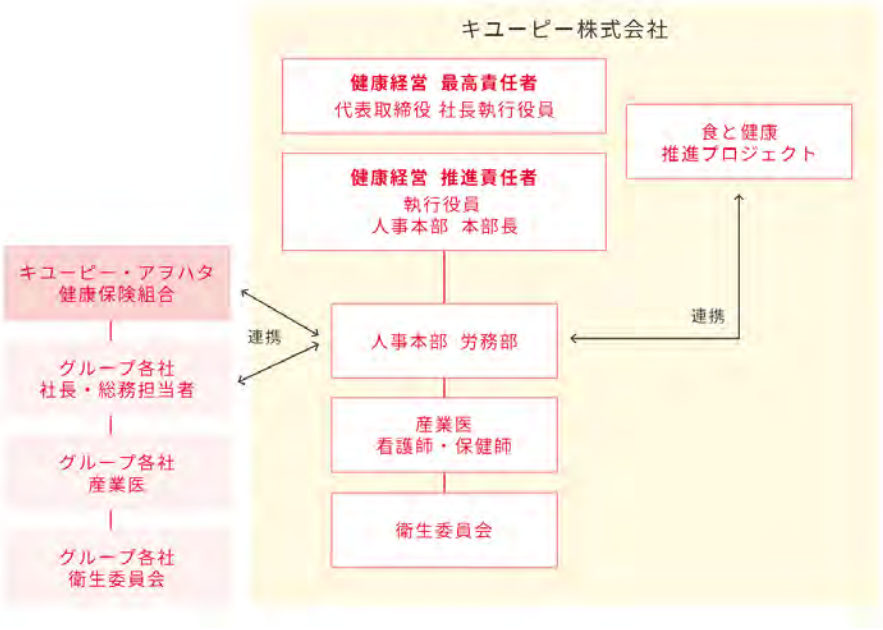
キユーピーグループは、野菜をサラダで食べるという食文化の普及と、栄養価の高いタマゴメニューの拡大を通して培ってきた技術を生かし、おいしく、楽しく、健康維持に役立つ食生活を提案していきます。

› 食と健康への貢献

2.セルフケアを通した従業員とその家族の健康増進

従業員とその家族が、自ら健康増進をはかれるよう支援するとともに、健康に対する意識の向上に努めます。

健康経営 推進体制



健康課題に対する重点施策

生活習慣の改善

生活習慣病の原因となる、食・運動などの生活習慣の改善をめざします。

がん検診受診率向上

がんは「早期発見・早期受診」が重要なことから、職域におけるがん検診の受診率向上を推進します。

メンタル対策

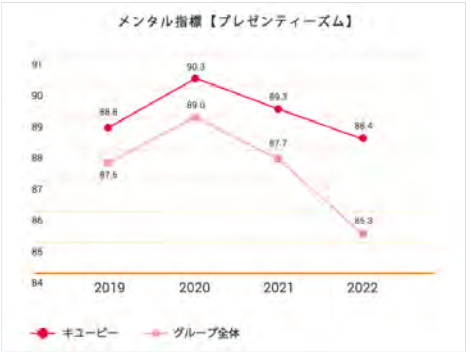
働く従業員が心の健康を保ち、いきいきと働ける職場環境をめざして、メンタルヘルス対策に取り組みます。

グループ共通健康指標「心と体の総合指標」

従業員や会社の「心と体」の健康状態を独自の共通指標によって「見える化」することで、健康に対して意識改革を促す取り組みを進めています。具体的には、「メンタル指標(プレゼンティーズム)」「健康年齢」について、組織の状態を上長にもフィードバックすることで、生活習慣・働き方や職場環境をより良くしていく活動につなげています。

メンタル指標(プレゼンティーズム)

ストレスチェックの結果から職場のストレスの状態を4段階(良好・要注意・高ストレス・スーパーレッド)に分け配点、各段階の人数比を掛け合わせて点数化しています。(キユーピーグループ独自のプレゼンティーズム指標:全員が良好であれば100)



健康年齢

健康診断の結果から算出される年齢と実際の年齢との差を表します。(健康年齢は株式会社ＪＭＤＣの登録商標)



グループ一般指標

働き方の指標





生活習慣の指標





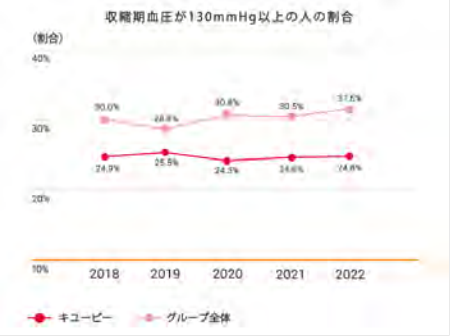


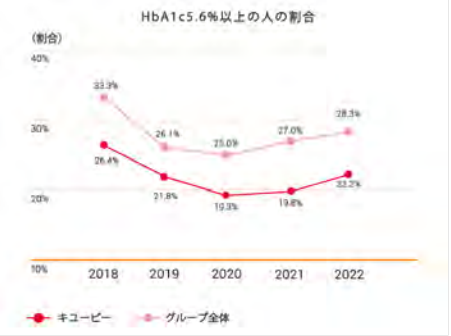


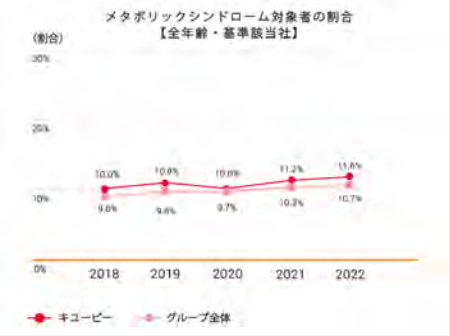
生活習慣病にかかわる指標





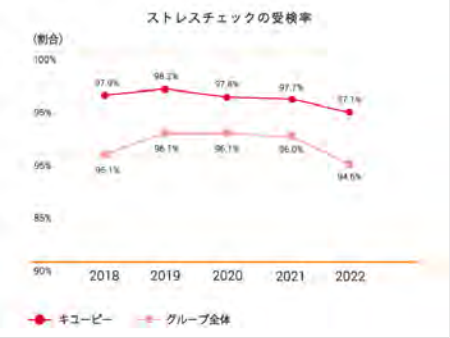


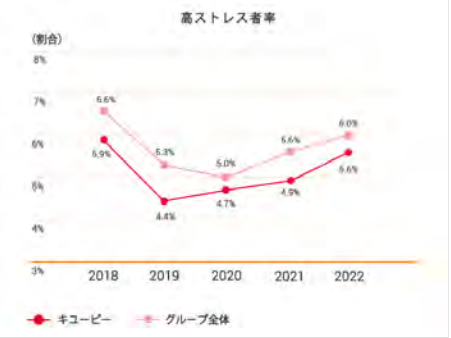






メンタルにかかわる指標





健康経営に向けた具体的な取り組み

私の健康目標

キユーピーグループでは、従業員が1年を健康で過ごすための「私の健康」を掲げて取り組んでいます。事業所内に掲示していた個人の目標は、2023年度より環境負荷軽減（紙やマグネットの削減）の観点から、イントラネット上に掲載していますが、生産現場などでイントラネットの閲覧環境が整っていない一部の事業所では、事業所内の掲示を継続しています。

健康応援BOOK（6.11MB）



こころとからだの健康面談

2022年度より「健康面談」を実施しています。キユーピー及びグループ各社の経営トップが健康宣言を発信し、それを受けて総務・労務担当者が従業員の心や体の不安、心配事を個別に聞く機会を設け、状況により専門職と連携してサポートしていきます。
キユーピーグループは対話を通して従業員一人ひとりの健康に向き合っていきます。



ヘルスアップキャンペーン

キユーピー・アヲハタ健康保健組合では生活習慣改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を年1回実施し、従業員が生活習慣を見直すきっかけづくりにしています。
コロナ禍には、参加率が60％を切った時期もありましたが、2022年度には69％と過去最多の参加率となりました。
ヘルスアップキャンペーンはグループ従業員の約2/3が参加する大規模イベントとなっています。





健康に配慮した食事の提案

社員食堂のある事業所では、社員食堂とタイアップし、定期的に健康に配慮したメニューを提案しています。また、テーマを設けたフェアやイベントを実施、従業員の食生活向上を意識した取り組みを実施しています。
「野菜の日（8月31日）」に向けた「サラダファースト」イベントは、ごはんなどの炭水化物の前にサラダから食べることで、食後の血糖値上昇が緩やかに抑えられることから、野菜から食べる＝サラダファーストを提唱しています。







イベントの様子

禁煙対策

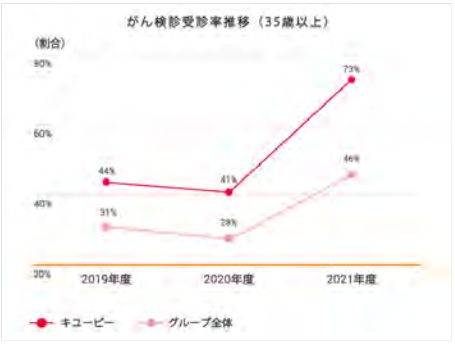
グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所（渋谷区、調布市）において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。
また、2017年から従業員の卒煙支援を強化し、禁煙外来、卒煙補助薬の自己負担額の補助や、自助努力での卒煙成功者に記念品を用意するなど、卒煙チャレンジを継続して促しています。

がん検診休暇・職域がん検診

キユーピーグループでは、従業員全員の定期健康診断に加え、35歳以上の従業員を対象に人間ドックやキユーピーグループ独自の3点セット検診（胃がん検診・大腸がん検診・腹部超音波検査）、20歳以上の女性従業員には婦人科検診（乳がん検診・子宮がん検診）が受診できます。この検診はキユーピー・アヲハタ健康保健組合が補助を行っています。
さらに、より従業員が受診しやすい環境を整えるよう「がん検診休暇」の付与し、移動検診車による職域集団がん検診の実施など、キユーピーグループ受診率目標80%に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

2019年～　首都圏で婦人科がん検診を実施
2021年～　首都圏で3点セット検診実施
　　検診休暇付与開始
　　職域集団がん検診実施
2022年以降　順次エリア拡大予定





ストレスチェックシートによる集団分析

キユーピーグループでは、ストレスチェックの結果を基に、職場改善を目的とした集団分析のためのストレスチェックシートを作成しています。
外部の企業の平均に加え、グループ内の同業態の事業所・会社との比較や、組織別のリスク要因を明確にすることで、従業員がより働きやすい職場に改善できるよう努めています。



ストレスチェックシート イメージ

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員の人数も年々増加しています。
海外駐在員にも、国内同様の健康管理体制を行えるよう、年1回人間ドックを受診してもらい、必要に応じて看護師からのアドバイスを行っています。また、メンタル面においても、赴任3カ月後のヒアリング、ストレスチェックなどによるサポートを行っています。

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キユーピーグループの生産事業所では、キユーピー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

1.全生産工場の安全監査(国内73カ所)
2.グループ安全会議
3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キユーピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

1.リスクアセスメントの実施
2.安全教育手順書による教育
3.QBSS(キユーピー・アヲハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移(各年度4月末集計)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
休業災害件数	24	13	12	17	9
度数率※1	0.99	0.62	0.60	0.90	0.46
強度率※2	0.034	0.038	0.020	0.031	0.027

対象:キユーピーグループ国内工場
※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000
※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

› ESGデータ集

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス −
  - 倫理規範
  - コーポレート・ガバナンス
  - リスクマネジメント
- 安全・安心 +
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ガバナンス



キユーピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいきます。



倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様に信頼していただける企業活動を行います。



コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みをご案内します。



リスクマネジメント

リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
  - 倫理規範
  - コーポレート・ガバナンス
  - リスクマネジメント
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

倫理規範

倫理規範に基づく取り組み　法令の遵守　人権の尊重
公正・健全な企業活動　情報セキュリティの徹底　反社会的勢力への対応

倫理規範に基づく取り組み

キユーピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるよう私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。
その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。
役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

› 理念
› キユーピーの約束

法令の遵守

企業の永続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キユーピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

› コーポレート・ガバナンス
› キユーピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施しています。

・従業員意識調査アンケート
全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。

・ヘルプライン
公益通報者保護法に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。
社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス調査会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

› 人権尊重への取り組み

キユーピーグループ人権方針（361KB）

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

› 持続可能な調達のための基本方針

› 調達への取り組み

競争法（独占禁止法・下請法）遵守に向けた体制づくり

キユーピーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法（独占禁止法・下請法）の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- 「独占禁止法遵守マニュアル」、「事例問題・Q&A集」の制定
- eラーニングや社内勉強会による、独占禁止法に関する教育・研修の実施
- 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

下請法への対応

- 下請法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- eラーニングや社内勉強会による、下請法に関する教育・研修の定期実施
- 「下請法対応マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、下請法セルフチェックリストの整備
- 関係部門での下請法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

› プライバシーポリシー

› コーポレート・ガバナンス

› 個人情報のお取り扱いについて

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。
グループ従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。
また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニング等のコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

企業情報

- 企業情報トップ
- トップメッセージ
- 基本方針
- キユーピーの約束
  - コーポレート・ガバナンス
  - 反贈賄基本方針制定について
  - 消費者志向自主宣言
  - プライバシーポリシー
  - 個人情報のお取り扱いについて
- 会社概要

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方　コーポレートガバナンス体制

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループは、コーポレート・ガバナンスを、「世界の食と健康に貢献する」というめざす姿を実現するとともに、グループの持続的な成長と企業価値の向上を実現するための重要な経営基盤と考えています。
さまざまなステークホルダーとの対話を大事にしながら、当社グループのユニークさを活かしたコーポレートガバナンス体制の整備・充実に継続して取り組んでいきます。

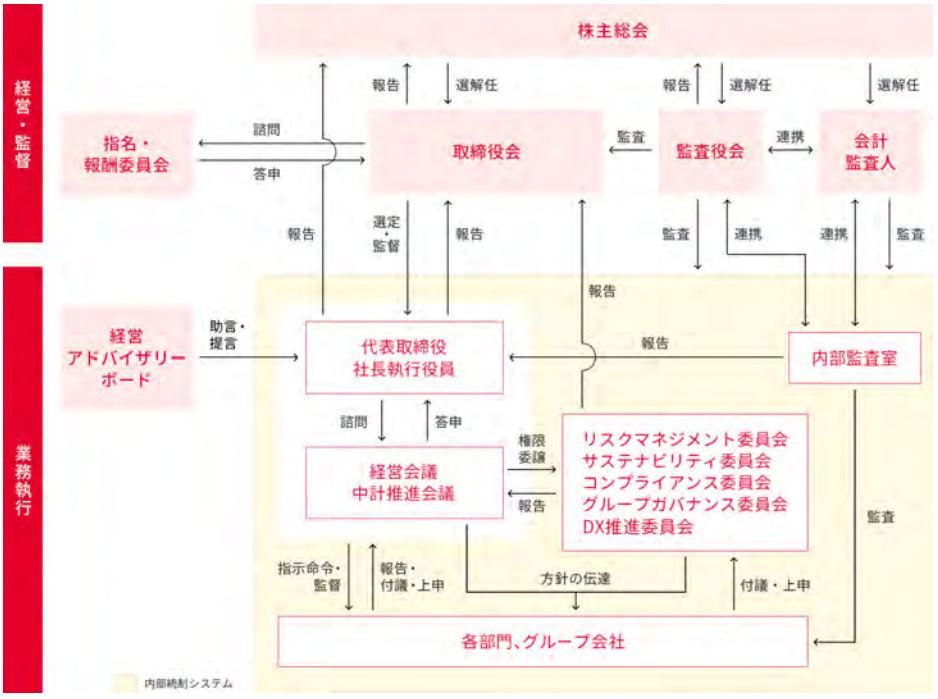
※ 当社グループは、「コーポレート・ガバナンス」を、『お客様や株主をはじめとするさまざまなステークホルダーの立場等を踏まえたうえで、持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けた、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組み』と定義しています。

コーポレートガバナンス・ガイドライン（460KB）

コーポレート・ガバナンスに関する報告書（216KB）

コーポレートガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社です。その機関設計のもと、取締役会の監督機能の強化を進めています。
また、業務執行を適切かつ機動的に進めるために、執行役員制度を採用しています。
取締役および執行役員の任期を１年とすることで、事業年度ごとの経営責任をより明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築しています。



経営・監督

取締役会

取締役会は、グループ全体を俯瞰できる執行役員を中心とした常勤取締役7名と社外取締役3名の体制です。
当社グループとしての方針・戦略(中期経営計画等)をはじめとする経営における重要な事項について意思決定を行うとともに、取締役および執行役員の職務執行を監督しています。

取締役会の実効性評価(344KB)

監査役会

監査役会は、常勤監査役2名、社外監査役3名の体制です。
代表取締役 社長執行役員との意見交換、重要会議・重要委員会への出席、担当役員や各部門の責任者からの報告、事業所往査などを通じて、内部統制システムの整備・運用状況を監視しています。また、会計監査人や内部監査部門と定期的な情報共有含め連携を図っています。

※社外取締役および社外監査役の6名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

※詳細は役員一覧をご覧ください。

› 役員一覧

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役等の指名・報酬のあり方などに関する客観性、妥当性および透明性を高めることを目的に、取締役会の諮問機関として指名・報酬委員会を設置しています。
5名以上の委員で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。
委員長は、社外取締役の委員の中から、指名・報酬委員会の決議により選定しており、委員会の議長を務めています。

構成(2023年2月24日時点)

委員長	社外取締役 柏木 斉
委員	社外取締役 漆 紫穂子
	社外取締役 福島 敦子
	社外監査役 寺脇 一峰
	取締役会長 中島 周
	代表取締役 社長執行役員 髙宮 満
	取締役 上席執行役員 山本信一郎

業務執行

重要会議・委員会

グループの全体方針および最重要事項は、当社の取締役会または経営会議(または中計推進会議)での審議を経て、決定します。グループ横断の重要かつ専門的な課題については、経営会議から権限を委譲された特定の重要会議・委員会が方針の策定・取り組みの推進を担うことで、迅速かつ適切な決裁と実行につなげています。特に内部統制に関する機能は、主に下記の重要会議・委員会が分担しています。

会議体	主催者・委員長	主な役割
経営会議	代表取締役 社長執行役員	グループ経営に関わる重要な事項(事業リスク含む)について審議し、モニタリングを行う重要会議です。社内取締役と執行役員が主な参加メンバーです。

会議体	主催者・委員長	主な役割
中計推進会議	代表取締役 社長執行役員	上記のうち、特に中期経営計画の推進に関わる重要な事項について、業務執行取締役中心のメンバーで審議する重要会議です。
リスク マネジメント 委員会	リスク マネジメント 担当取締役	グループ全体のリスクマネジメント方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。全社的なリスクに関して、情報を集約し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを統括しています。
サステナビリティ 委員会	サステナビリティ 担当取締役	グループ規範に沿ってサステナビリティの実現に向けた方針の策定、重点課題の決定と取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。サステナビリティ基本方針を策定し、それに基づく社会・環境面の重点課題に取り組んでいます。
コンプライアンス 委員会	コンプライアンス 担当取締役	グループ全体のコンプライアンスに関する体制の整備、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 コンプライアンスに関わる問題点の把握に努めるとともに、コンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行っています。
グループ ガバナンス 委員会	グループ ガバナンス 担当取締役	適切なグループガバナンス構築に関する方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要委員会です。 適切な意思決定・グループ会社管理体制の整備等の施策の推進を行っています。
DX推進委員会	IT・業務改革推進 担当執行役員	グループ全体のデジタル戦略方針の策定、資源投入(コスト・体制など)の適正化、DX人材育成の方針の策定・推進を主な役割とする重要委員会です。直轄組織である情報推進委員会を通じ、グループ全体の情報セキュリティの維持、IT環境の整備、ITリテラシー教育およびIT活用の推進も行っています。

内部統制システム構築の基本方針（476KB）

経営アドバイザリーボード

代表取締役 社長執行役員の諮問機関として設置しており、経営アドバイザリーボードミーティングには社外の有識者から構成される社外委員とオブザーバー委員(当社の社外役員)、当社の代表取締役 社長執行役員に加え、議題に応じて他の取締役などが参加しています。当社グループの健全性、公平性、透明性を維持・向上させるための助言・提言を受け、意思決定に反映させています。なお、経営アドバイザリーボードミーティングは、定例会を年間で2回開催しているほか、必要に応じて随時開催しています。

内部監査室

合法性と合理性の観点から、自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、内部監査を行っています。また、当社代表取締役 社長執行役員の指名に基づき財務報告に係る内部統制の有効性評価を行っています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
  - 倫理規範
  - コーポレート・ガバナンス
  - リスクマネジメント
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

リスクマネジメント

リスクの評価・選定　リスクマネジメント体制　主なリスクマネジメント活動

リスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

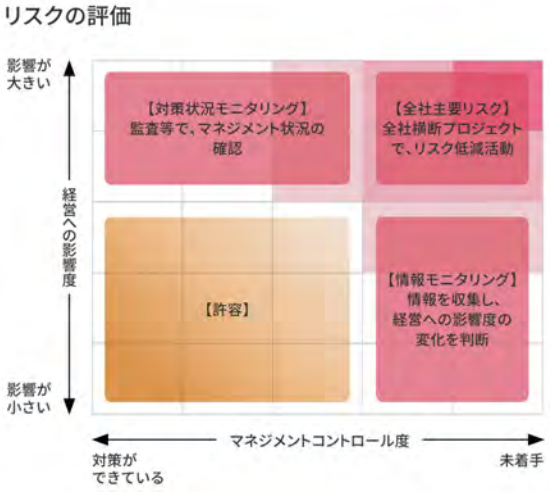
経営への影響度が大きいにも関わらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロール度が高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。



リスクマネジメント体制

キユーピーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会※で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の9つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当取締役が定期的に取締役会へ報告しています。

※ リスクマネジメント委員会は、キユーピー(株)経営会議メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、キユーピーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。

※ 地球環境問題、気候変動については、サステナビリティ委員会で対応しています。

主なリスクマネジメント活動

海外展開のリスク低減活動 海外グループ会社の「内部統制推進プロジェクト」

キユーピーグループでは、海外拠点の従業員が安心して業務を遂行できる環境を整え、グループの成長・発展につなげる活動に取り組んでいます。
その活動の中心として、経営基盤の強化につながる内部統制システム(ガバナンス、コンプライアンスおよびリスクマネジメント)の整備を推進するための法務・財務・人事・IT・知財・危機管理・内部監査・海外事業などの部署により構成している「内部統制推進プロジェクト」を組織し、さまざまな取り組みを行っています。
内部統制推進プロジェクトでは、これまでに、参加している専門部署ごとに考えられる海外リスクマネジメントのためのチェックリストの作成や海外各社とのやり取りを通じて、双方向型での内部統制システムの整備を推進してきました。


「内部統制推進プロジェクト」オンラインミーティングの様子

具体的な取り組み

- 反贈収賄プログラムの展開
- 国内外で統一した危機発生時の事業継続計画(BCP)の策定
- 情報セキュリティ対策の推進
- 人事労務体制の強化(規程類・制度の整備と見直し、理念研修等)
- 海外グループ会社のメンバーを対象とした研修

今後も、海外グループ会社とプロジェクトの取り組みの到達点、スケジュールを共有し、連携しながら、海外の内部統制システムの整備を更に進めていきます。

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画（BCP）

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を生かして、キユーピーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し対策に取り組んでいます。
主に下記について備えています。

- 東京の本社機能を関西で代替するための体制の維持
- 非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄
- 生産設備や物流設備の耐震補強
- 生産設備の状態を確認するシステムの整備
- 主要商品の生産拠点や原資材の調達の二拠点化、受注機能の二拠点化
- 全国規模で在宅勤務へ移行できる体制の維持



対策本部会議の様子

危機発生の種類ごとにマニュアルを整備し、それらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練（初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練）を行っています。
これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように備えています。

ランサムウェア※リスクへの対応

国内外でランサムウェアによる企業への攻撃が増加しており、キユーピーグループでもリスクの認識を高め、対応を講じています。
緊急時を想定し、攻撃を受けた際に対応できる環境構築を進めています。ハード面の強化策として、全パソコン、全サーバに対しマルウェア対策を進めるとともに、ソフト面の強化策では、全従業員に対し継続的な社内教育プログラムの実施、および攻撃メールの模擬訓練を実施するなど、従業員へのセキュリティ認識向上にも取り組んでいます。

※感染すると端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にしたうえで、搾取データ開示の脅しだけでなく、復号する対価として金銭を要求する不正プログラム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

安全・安心

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。





品質への想い

人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。



原料の品質

品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。



製造工程の品質

製造現場においては徹底したルールの遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



容器包装の品質

品質とおいしさを守るため容器の改良を重ねてきました。



食の安全性評価

商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。



お客様に安心していただくために

お客様の声を生かす仕組みと、商品の表示の見方をご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

品質への想い

品質を確かにする人づくり　品質を裏付ける仕組みづくり　品質を高める技術の追求

品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校　品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

ものづくり学校で学ぶこと

安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



わくわくアワード

わくわくアワードとは

キユーピーグループでは「お客様と従業員の笑顔につながる品質向上活動」として「わくわく活動」を行っています。
「グローバル」「協働と創造」「共感（賞賛）」を合言葉に「わくわくアワード」を開催して、国内外のグループ全社より選び抜かれたチームの「わくわく活動」を共有、水平展開することで、私たちキユーピーグループのめざす姿である「世界の食と健康に貢献する」ことに繋げています。



品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に受けることによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つめ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ（GFSI）が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。



品質を高める技術の追求

私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

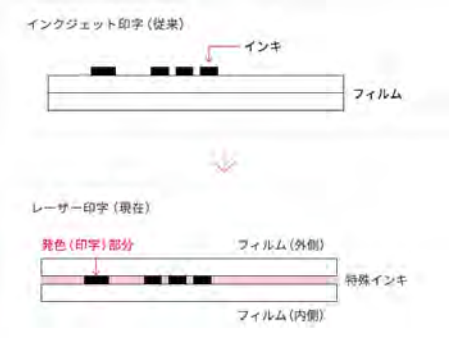
生産技術

マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

二層になっているフィルムの間に特殊なインキを塗布してあり、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることがありません。





食品の中に含まれる微生物の同定※に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※微生物の種類を特定すること。



食品の中に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

原料の品質

良い商品は良い原料からしか生まれない　マヨネーズの原料　ベビーフードの原料

良い商品は良い原料からしか生まれない

キユーピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキユーピー創始者である中島董一郎の想いを大切に、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、全段階で品質第一主義を徹底しています。
すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。
その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。

良い原料を入手するために大切にしていること

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合には、私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。
異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。

マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキユーピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。



卵の鮮度チェック

植物油

キユーピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キユーピースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

酢

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



マヨネーズ専用酢を作っているキユーピー醸造株式会社



発酵タンク

ベビーフードの原料

ベビーフードは品質の集大成

ベビーフードは、赤ちゃんが食べるもの。だから、私たちが使用する原料には公的基準に加えて、ベビーフード協議会の自主規格をもとにしたキユーピー独自の基準も設定しています。

産地や調達先を直接訪問してベビーフードに使う原料であることを伝え、品質を確認し合っています。たとえば、私たちの原料検査で気になることがあれば、それを持って調達先を訪問し、対応について一緒に考えます。

ベビーフードには着色料、香料は使っていません。安全かどうかという尺度ではありません。赤ちゃんの食はどうあるべきかを考えたとき、素材を大切にすべきと思うからです。



› 心を込めて、一つ、ひとつ。（ベビーフード紹介サイト）

異物探知機と人で原料を確認

農産物等の原料は、その状態、特性に応じて、X線を使った異物探知機や目視検査で確認しています。特に大切にしているのが、目で見て、匂いをかいで、手の感覚を働かせての選別です。

たとえば、家庭で使っている米には、割れたもの、一部が黒ずんだものも含まれています。
でも、それがベビーフードに含まれていると、子育て中の皆さんは心配になってしまいます。そこで、米粒も人が確認し、こうしたものを取り除いて使っています。にんじんは小さく角切りにされたものが入荷されてきます。これも確認し、変色したもの、大きなものなどを人の手で除去しています。



サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティ マネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
品質への想い
原料の品質
製造工程の品質
容器包装の品質
食の安全性評価
お客様に安心していただくために
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループ オフィシャルブログ
グループ各社の サステナビリティ活動

製造工程の品質

ルールの徹底とミス防止の仕組み
マヨネーズの製造品質
ベビーフードの製造品質

ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業者からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

意図的な異物混入防止の方針

1.製造現場内には決められた者しか入れない
2.意図的な悪戯をさせない
3.問題ないことを後から証明できる
＋従業員との対話を大切にする

安全な商品を作るためのルール



配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。

さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造工程



1 割卵

キユーピー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61℃×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2～4mm。手作りよりもキユーピー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、箱に決められた本数が入っているか、全数確認します。



7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

ベビーフードの製造品質

発売以来「品質第一」を信条とし、ベビーフードの品質を守っています。大切にしているのは、赤ちゃんを育てている皆さんの気持ちになること。ベビーフード作りで培ったノウハウが、他の商品作りにも活かされています。

レトルトパウチタイプの製造工程一例



1 選別

注意深く見て、原料を選別します。



2 調理

大きな釜に原料を入れて調理します。おいしく仕上げるために、かき混ぜ方などにひと工夫しています。



3 金属異物確認

調理したものの中に金属異物が含まれていないことを確認するため、強力なマグネットを使用します。



4 充てん密封

袋の中に一定量を充てんします。直後に袋の上部を熱を使って 接着し、異物などが内部に入らないようにします。



5 重量確認

定められた重量が充てんされていることを0.1g単位で全数確認します。



6 加熱殺菌

レトルトパウチの場合、120℃、4分相当以上の加熱殺菌をします。そのため、保存料などは不要です。



7 異物確認

X線を使って内部を透過撮影し、異物が入っていないか、全数確認します。



8 密封検査包装

密封されていることを全数確認し、包装します。



9 最終検査

風味・状態などを最終チェックし、問題ないことを確認します。



10 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティ マネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
品質への想い
原料の品質
製造工程の品質
容器包装の品質
食の安全性評価
お客様に安心していただくために
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループ オフィシャルブログ
グループ各社の サステナビリティ活動

安全な商品を作るためのルール

安全・安心な商品を製造するため、工場では、服装・入室に関するルールだけでなく、意図的な異物混入を防ぐ対策もしています。

服装規定

製造現場に入るときは、必ず決められた清潔な作業服に着替えます。帽子は二重になっていて、裾は作業服の中に入っています。作業服の袖部分、胴部分、裾部分にはそれぞれ二重に絞りを設けているので、万が一、毛髪が落ちても作業服内に留まります。



入室規定



1. 粘着ローラーで頭から足元まで40秒以上かけて毛髪などを取り除きます。



2. 30秒以上手を洗い、乾燥します。



3. アルコール消毒をします。



4. 空気のシャワーでほこりなどを吹き飛ばしてから、製造現場に入室します。

フードディフェンス

私たちは以下の基本方針に基づいて、意図的な異物混入を防ぐ対策をとっています。

1.製造現場内には決められた者しか入れない
2.意図的な悪戯をさせない
3.問題ないことを後から証明できる
＋従業員との対話を大切にする

意図的な異物混入防止対策　一例



1．製造現場への入室管理
静脈認証や暗証番号などで管理し、関係者以外は入室できないようになっています。



2．薬品庫、屋外タンクの鍵管理
社員証がなければキーボックスを開錠できません。さらに、鍵は誰がいつ持ち出し、いつ返却したかも記録されます。



3．安心カメラ
万が一の不測の事態の際に、当時の製造状況を確認し、安全・安心が証明できるようにしています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
食と健康への貢献
地球環境への貢献
持続可能な調達
人権の尊重
ガバナンス
安全・安心
品質への想い
原料の品質
製造工程の品質
容器包装の品質
食の安全性評価
お客様に安心していただくために
開示方針
各種報告書
対照表
ESGデータ集
各種方針
イニシアチブ・加盟団体
社会・環境活動の歴史
キユーピーグループオフィシャルブログ
グループ各社のサステナビリティ活動

容器包装の品質

品質評価　マヨネーズの酸化防止

品質評価

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。
内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。
また、機能性評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。

おいしさを守る



容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。



赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。

商品の中身を守る

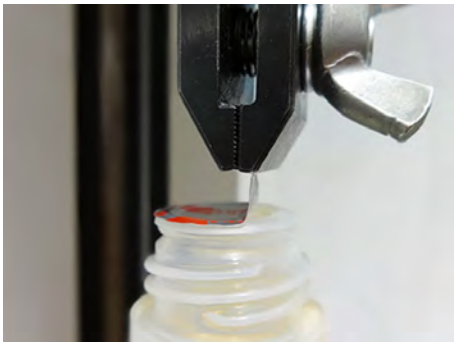


上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。



流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

安全に快適にお使いいただく



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キユーピー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています（1988年から）。



ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています（1972年から）。さらにキユーピーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます（2005年から）。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

食の安全性評価

食の安全評価への取り組み　理化学的評価　微生物学的評価　放射性物質検査

食の安全評価への取り組み

キユーピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。
お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。

理化学的評価

化学的危害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。


1.成分の抽出・調製


2.分析機器による測定


3.分析結果の解析

食物アレルゲン検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期検査を行い、商品に表示していない特定原材料（アレルゲン）が混入していないことを確認しています。


1.サンプルの分注

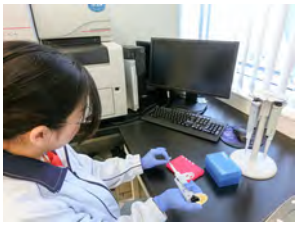

2.サンプルの測定

微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1.一般的な微生物検査



2.遺伝子検査



3.それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定※

※微生物の種類を特定すること。

放射性物質検査

私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメータを用い、放射性物質を定期的に検査して問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1.サンプルの調製



2.ゲルマニウム半導体検出器にセッティング



3.データ解析

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

お客様に安心していただくために

消費者志向自主宣言　お客様相談室での対応　商品の表示への取り組み

消費者志向自主宣言

キユーピーでは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。

› 消費者志向自主宣言

お客様相談室での対応

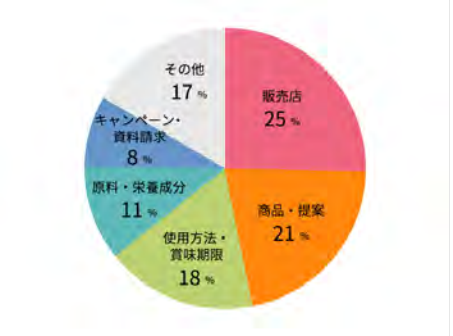
お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。
さらに、ご意見の内容を把握して社内で共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



2022年度 お問い合わせ内容



※2019年度のアレンジプラス、2020年度のパスタソースカルボナーラ 自主回収実施件数は除く

お客様の声の活用

お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。
そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



3 お客様の声委員会で審議

定期的に開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



5 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を活かした新しい商品が完成します。

商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。

義務表示

義務表示については、法令に則った間違いない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

任意表示

お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



マヨネーズの表示の見方



ベビーフードの表示の見方



ドレッシングの表示の見方

お客様の声に関する情報



お客様相談室

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、問い合わせ状況の掲載を行っています。



お客様の声から生まれた商品

キユーピー エッグケアは卵アレルギーに関するお問い合わせがもととなって開発されました。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

マヨネーズの表示の見方

マヨネーズの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品

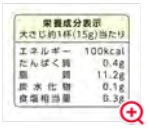




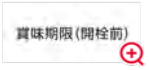
裏面表示



一括表示

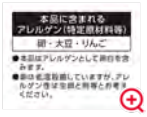


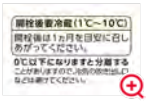
栄養成分表示



賞味期限

アレルゲンアイコン

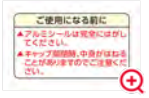




ご使用中の注意事項

お客様相談室のフリーダイヤル





ご使用になる前に



リサイクル表示

JASマーク



公正マーク





ベルマーク

ベビーフードの表示の見方 ›
ドレッシングの表示の見方 ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ベビーフードの表示の見方

ベビーフードの表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品





表面表示



アレルゲンアイコン



対象月齢

裏面表示



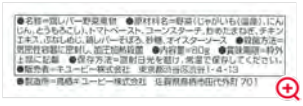
賞味期限



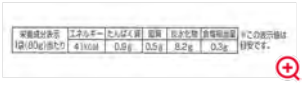
召しあがり方



ご使用中の注意事項（特に気を付けていただきたいこと）



一括表示



栄養成分表示



ご使用中の注意事項



リサイクル表示



レトルトパウチ食品



乳児用規格適用食品



お客様相談室のフリーダイヤル



WFP

マヨネーズの表示の見方 ›

ドレッシングの表示の見方 ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
  - 品質への想い
  - 原料の品質
  - 製造工程の品質
  - 容器包装の品質
  - 食の安全性評価
  - お客様に安心していただくために
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ドレッシングの表示の見方

ドレッシングの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品





裏面表示

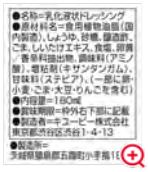
一括表示

栄養成分表示

その他お伝えしたいこと

アレルゲンアイコン

お客様相談室のフリーダイヤル





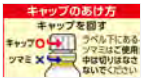








中栓の開け方





中栓の分別方法



リサイクル表示



ドレッシングの振り方



賞味期限



ご使用中の注意事項

マヨネーズの表示の見方 ›

ベビーフードの表示の見方 ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

開示方針

基本的な考え方　開示情報　お問い合わせ　報告書の変遷

基本的な考え方

キユーピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトに網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダードを参照して構成しています。
その他、株主・投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様に向けて財務・非財務情報を統合し企業価値創造のための中長期戦略と各施策をご報告する「キユーピーグループ統合報告書」を作成しています。



開示情報

対象組織：キユーピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計84社

対象期間：2022年度（2021年12月1日から2022年11月30日）
※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新
公開：2023年5月

参照ガイドライン：
GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン スタンダード
環境省 環境報告ガイドライン
国連グローバル・コンパクト
ISO26000
SASB スタンダード

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
キユーピー株式会社　経営推進本部　サステナビリティ推進部　環境チーム
東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3331

報告書の変遷

2022年度～	サステナビリティサイト、統合報告書
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2005年度	環境・社会報告書
2001年度～	環境報告書

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

各種報告書

報告書ダウンロード　報告書バックナンバー

キユーピーグループ統合報告書 2023

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容等を総合的にご報告します。



統合報告書 ›

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

各種報告書

報告書ダウンロード　報告書バックナンバー

本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。

キユーピーサステナビリティサイトPDF	
2022年	キユーピーサステナビリティサイト2022（26MB）
2021年	キユーピーサステナビリティサイト2021（17.9MB）
2020年	キユーピーサステナビリティサイト2020（24.9MB）
2019年	キユーピーサステナビリティサイト（旧CSRサイト）2019（7.98MB）

コミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック	
2021年	コミュニケーションブック2021（5.28MB）
2020年	コミュニケーションブック2020（4.2MB）
2019年	コミュニケーションブック2019（6.9MB）

社会・環境報告書は以下よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	ダイジェスト版（3.80MB）	フルレポート（7.12MB）
2017年		フルレポート（7.61MB）
2016年	ダイジェスト版（4.84MB）	フルレポート（7.31MB）
2015年	ハイライト（2.52MB）	フルレポート（3.73MB）
2014年	ハイライト（4.25MB）	フルレポート（2.88MB）
2013年	ハイライト（7.60MB）	フルレポート（4.14MB）
2012年	ハイライト（1.06MB）	フルレポート（4.75MB）
2011年	ハイライト（3.31MB）	フルレポート（4.20MB）
2010年	ハイライト（5.82MB）	フルレポート（8.44MB）
2009年	ハイライト（7.87MB）	フルレポート（5.71MB）

2008年	ハイライト（6.73MB）	フルレポート（6.14MB）
2007年	ハイライト（3.83MB）	フルレポート（3.88MB）
2006年	冊子版（5.15MB）	ウェブ版（3.31MB）
2005年	冊子版（2.30MB）	
2004年	冊子版（1.19MB）	
2003年	冊子版（1.19MB）	
2002年	冊子版（1.19MB）	
2001年	冊子版（1.19MB）	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

対照表

GRIスタンダード対照表 | SASB対照表

GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参照して制作しています。

番号	タイトル	記載ページ	ISO26000（中核主題）	
共通スタンダード				
102:一般開示事項				
組織のプロフィール				
102-1	組織の名称	> 会社概要	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	> グループの事業		同上
102-3	本社の所在地	> 会社概要		同上
102-4	事業所の所在地	> 事業所 > グループ会社		同上
102-5	所有形態および法人格	> グループの事業		同上
102-6	参入市場	有価証券報告書 > 主要な設備の状況 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話		同上
102-7	組織の規模	> 会社概要		同上

102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	> 多様な人材の活躍		同上
102-9	サプライチェーン	> 重点課題と推進体制 > 原料の品質 > 持続可能な調達の推進 > 持続可能な調達のための基本方針		同上
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	当該期間については該当なし		同上
102-11	予防原則または予防的アプローチ	> 事業等のリスク 有価証券報告書 > コーポレート・ガバナンスの状況等 統合報告書 > コーポレート・ガバナンス		同上
102-12	外部イニシアティブ	> 社外からの評価 > イニシアチブ・加盟団体		同上
102-13	団体の会員資格	> 一般財団法人 食品安全マネジメント協会 > 公益財団法人 キユーピーみらいたまご財団		同上
戦略				
102-14	上級意思決定者の声明	統合報告書 > トップメッセージ > トップメッセージ	4.7 6.2	国際行動規範の尊重 組織統治
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	> 事業等のリスク > 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント 統合報告書 > リスクマネジメント		同上
倫理と誠実性				
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	> 理念 > キユーピーの約束 > 重点課題と推進体制 > 各種方針	4.4 6.6.3	倫理的な行動 汚職防止
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書 > コーポレート・ガバナンス		同上
ガバナンス				
102-18	ガバナンス構造	> コーポレート・ガバナンス > 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み	6.2	組織統治
102-19	権限移譲	有価証券報告書 > 企業統治の体制の概要 > 重点課題と推進体制		同上

		> 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み		
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	有価証券報告書 > 企業統治の体制の概要 > 重点課題と推進体制 > 役員一覧		同上
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	> 重点課題と推進体制 > ステークホルダーとの対話 統合報告書 > 経営アドバイザリーボード		同上
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-23	最高ガバナンス機関の議長	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-25	利益相反	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	> サステナビリティマネジメント		同上
102-27	最高ガバナンス機関の集合的知見	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	> サステナビリティマネジメント > ステークホルダーとの対話 統合報告書 > 経営アドバイザリーボード		同上
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	> サステナビリティマネジメント 統合報告書 > 価値創造プロセス 統合報告書 > 価値創造ストーリー		同上
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	> 重点課題と推進体制		同上
102-33	重大な懸念事項の伝達	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-35	報酬方針	> コーポレート・ガバナンス		同上

		第110回定時株主総会招集ご通知 > 取締役および監査役の報酬等の額 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		
102-36	報酬の決定プロセス	> コーポレート・ガバナンス 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		同上
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	第110回定時株主総会招集ご通知 > 取締役および監査役の報酬等の額 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		同上
102-38	年間報酬総額の比率			同上
102-39	年間報酬総額比率の増加率			同上
ステークホルダー・エンゲージメント				
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	> ステークホルダーとの対話 > キユーピーみらいたまご財団 > 事業内容	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-41	団体交渉協定	> 多様な人材の活躍	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-42	ステークホルダーの特定および選定	> ステークホルダーとの対話 > キユーピーみらいたまご財団 > 助成募集について	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	> ステークホルダーとの対話 > キユーピーみらいたまご財団 > 助成募集について > 消費者志向自主宣言	5.3 4.6 6.7.6	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント 法の支配の尊重 課題4:消費者に対するサービス、支援、並び

				に苦情および紛争の解決
102-44	提起された重要な項目および懸念	> ステークホルダーとの対話	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
報告実務				
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	有価証券報告書 > 関係会社の状況	5.2	社会的責任の認識
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	> 重点課題と推進体制		同上
102-47	マテリアルな項目のリスト	> 重点課題と推進体制		同上
102-48	情報の再記述	当該期間については該当なし		同上
102-49	報告における変更	当該期間については該当なし		同上
102-50	報告期間	> 開示方針		
102-51	前回発行した報告書の日付	2023年5月30日		
102-52	報告サイクル	年1回発行		
102-53	報告書に関する質問の窓口	> 開示方針		
102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	当ウェブサイトはGRIスタンダードを参照して制作しています。		
102-55	内容索引	> 対照表		
102-56	外部保証			
103:マネジメント手法				
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	> 重点課題と推進体制 > 事業等のリスク	5.2	社会的責任の認識
103-2	マネジメント手法とその要素	> 重点課題と推進体制 > 食と健康への貢献 > 地球環境への貢献 > 人権の尊重		
103-3	マネジメント手法の評価方法	統合報告書 > 価値創造プロセス 統合報告書 > 価値創造ストーリー		
項目別のスタンダード				

経済				
201:経済パフォーマンス				
201 -1	創出、分配した直接的経済価値	有価証券報告書 > 企業情報	6.8.1 -6.8.2 6.8.3 6.8.7 6.8.9	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題1:コミュニティへの参画 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
201 -2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> 事業等のリスク > リスクマネジメント 2022年度TCFD報告	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
201 -3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	有価証券報告書 > 退職給付関係	6.8.7	課題5:富及び所得の創出
201 -4	政府から受けた資金援助			
202:地域経済での存在感				
202 -1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	当該期間については該当なし	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4 6.8.1 -6.8.2	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
202 -2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	> ダイバーシティへの取り組み	6.4.3 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7	課題1:雇用及び雇用関係 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題3:雇用創出及び技能開発 課題5:富及び所得の創出
203:間接的な経済的インパクト				
203 -1	インフラ投資および支援サービス	> 食と健康への貢献 > キユーピーみらいたまご財団 > 事業内容	6.5.9 6.8.1 -6.8.2 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 コミュニティへの参画及びコミュニティ

				の発展、原則及び考慮点 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
203 -2	著しい間接的な経済的インパクト	当該期間については該当なし	6.3.9 6.6.6 6.6.7 6.7.8 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5:財産権の尊重 課題6:必要不可欠なサービスへのアクセス コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題3:雇用創出及び技能開発 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
204:調達慣行				
204 -1	地元サプライヤーへの支出の割合		6.4.3 6.6.6 6.8.1 -6.8.2 6.8.7	課題1:雇用及び雇用関係 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題5:富及び所得の創出
205:腐敗防止				
205 -1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	内部統制システム構築の基本方針 有価証券報告書 > 内部統制システムの運用状況 法令および定款に基づくインターネット開示事項	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
205 -2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	> 倫理規範 > 反贈賄基本方針制定について	6.6.1 -6.6.2 6.6.3 6.6.6	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進

205 -3	確定した腐敗事例と実施した措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
206:反競争的行為				
206 -1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.5 6.6.7	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題3:公正な競争 課題5:財産権の尊重
環境				
301:原材料				
301 -1	使用原材料の重量または体積	› 環境マネジメント	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -2	使用したリサイクル材料	› プラスチックの削減・再利用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -3	再生利用された製品と梱包材	› プラスチックの削減・再利用	6.5.3 6.5.4 6.7.5	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:持続可能な消費
302:エネルギー				
302 -1	組織内のエネルギー消費量	› 環境マネジメント › 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -2	組織外のエネルギー消費量	› 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -3	エネルギー原単位	› 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -4	エネルギー消費量の削減	› 気候変動への対応	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
302 -5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	› 環境マネジメント › 気候変動への対応 › ESGデータ集	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
303:水				
303 -1	水源別の取水量	› 環境マネジメント › 水資源の持続的利用 › ESGデータ集	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用

303-2	取水によって著しい影響を受ける水源		6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303-3	リサイクル・リユースした水	› 水資源の持続的利用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
304:生物多様性				
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	› 生物多様性の保全	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-3	生息地の保護・復元	› 生物多様性の保全	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに 国内保全種リスト対象の生物種	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
305:大気への排出				
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	› 気候変動への対応 › ESGデータ集	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	› 気候変動への対応 › ESGデータ集	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	› 気候変動への対応 › ESGデータ集	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	› 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	› 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量		6.5.3 6.5.5	課題1:汚染の予防 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびそ	› 環境マネジメント › ESGデータ集	6.5.3	課題1:汚染の予防

	の他の重大な大気排出物			
306:排水および廃棄物				
306 -1	排水の水質および排出先	› 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用
306 -2	種類別および処分方法別の廃棄物	› 食品ロスの削減・有効活用	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -3	重大な漏出	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -4	有害廃棄物の輸送	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	› 環境マネジメント › 水資源の持続的利用	6.5.3 6.5.4 6.5.6	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題4:自然環境の保護及び回復
307:環境コンプライアンス				
307 -1	環境法規制の違反	当該期間については該当なし › 環境マネジメント › ESGデータ集	4.6	法の支配の尊重
308:サプライヤーの環境面のアセスメント				
308 -1	環境基準により選定した新規サプライヤー	› 環境マネジメント › 持続可能な調達の推進	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
308 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	› 重点課題と推進体制 › 環境マネジメント › 持続可能な調達の推進 › 食品ロスの削減・有効活用 › プラスチックの削減・再利用 › 水資源の持続的利用 › 事業等のリスク	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
社会				
401:雇用				
401 -1	従業員の新規雇用と離職	› 多様な人材の活躍 › ESGデータ集	6.4.3	課題1:雇用及び雇用関係
401 -2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	› 多様な人材の活躍 › 健康経営・労働安全衛生	6.4.4 6.8.7	課題2:労働条件及び社会的保護 課題5:富及び所得の創出

401 -3	育児休暇	› 多様な人材の活躍 › ESGデータ集	6.4.4	課題2:労働条件及び社会的保護
402:労使関係				
402 -1	事業上の変更に関する最低通知期間		6.4.3 6.4.5	課題1:雇用及び雇用関係 課題3:社会対話
403:労働安全衛生				
403 -1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
403 -2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	› 健康経営・労働安全衛生	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403 -3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者		6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403 -4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
404:研修と教育				
404 -1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	› 多様な人材の活躍 › ESGデータ集	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
404 -2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	› 多様な人材の活躍	6.4.7 6.8.5	課題5:職場における人材育成及び訓練 課題3:雇用創出及び技能開発
404 -3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	› 多様な人材の活躍	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
405:ダイバーシティと機会均等				
405 -1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	› 多様な人材の活躍 › 人権尊重への取り組み	6.2.3 6.3.7 6.3.10 6.4.3	意思決定のプロセス及び構造 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
405 -2	基本給と報酬総額の男女比	› ESGデータ集	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係

				課題2:労働条件及び社会的保護
406:非差別				
406-1	差別事例と実施した救済措置	› 倫理規範 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.6 6.3.7 6.3.10 6.4.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
407:結社の自由と団体交渉				
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	› 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.8 6.3.10 6.4.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題6:市民的及び政治的権利 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題3:社会対話 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
408:児童労働				
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	› 倫理規範 › 持続可能な調達の推進 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.7 6.3.10 6.6.6 6.8.4	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題2:教育及び文化
409:強制労働				

409 -1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	› 倫理規範 › 持続可能な調達の推進 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.10 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
410:保安慣行				
410 -1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	› 倫理規範 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
411:先住民族の権利				
411 -1	先住民族の権利を侵害した事例	当該期間については該当なし	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.6 6.3.7 6.3.8 6.6.7 6.8.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題6:市民的及び政治的権利 課題5:財産権の尊重 課題1:コミュニティへの参画
412:人権アセスメント				
412 -1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	› 倫理規範 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避
412 -2	人権方針や手順に関する従業員研修	› 倫理規範 › 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2	人権の概要 原則及び考慮

			6.3.5	点 課題3:加担の回避
412 -3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
413:地域コミュニティ				
413 -1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	› 食と健康への貢献 › 社会貢献活動	6.3.9 6.5.1 -6.5.2 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 環境の概要、原則及び考慮点 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発
413 -2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在的、潜在的）を及ぼす事業所		6.3.9 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発
414:サプライヤーの社会面のアセスメント				
414 -1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	› 持続可能な調達の推進 › 持続可能な調達のための基本方針	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
414 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	› 重点課題と推進体制 › 持続可能な調達の推進 › 人権尊重への取り組み › 事業等のリスク	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデ

			6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	ィリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
415:公共政策				
415 -1	政治献金		6.6.1 -6.6.2 6.6.4	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題2:責任ある政治的関与
416:顧客の安全衛生				
416 -1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	› 安全・安心 › 品質への想い	6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
416 -2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	当該期間については該当なし › お客様に安心していただくために › 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
417:マーケティングとラベリング				
417 -1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	› 商品の表示への取り組み › ユニバーサルデザインへの取り組み › 消費者志向自主宣言	6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	消費者課題の概要、原則及び考慮点 公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護

				課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417 -2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	当該期間については該当なし › お客様に安心していただくために › 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に則した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417 -3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	当該期間については該当なし › お客様に安心していただくために › 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に則した偏りのない情報、及び公正な契約慣行
418:顧客プライバシー				
418 -1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	当該期間については該当なし › プライバシーポリシー › 個人情報のお取り扱いについて	6.7.1 -6.7.2 6.7.7	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題5:消費者データ保護及びプライバシー
419:社会経済面のコンプライアンス				
419 -1	社会経済分野の法規制違反	当該期間については該当なし › お客様に安心していただくために	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.6	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

対照表

GRIスタンダード対照表 | SASB対照表

SASB対照表

Sustainability Accounting Standards Board（SASB）は、投資家のニーズを満たすために重要な持続可能性情報の開示を促進する、独立した基準設定組織です。
下表は、SASBの持続可能な産業分類システム（SICS）で定義されている加工食品業界の基準を参照し、該当箇所を示すものです。

タイトル	SASBコード	指標	記載ページ	付記
エネルギー管理	FB-PF-130a.1	(1)エネルギーの総使用量(2)系統電力からの電気の割合(3)再生可能エネルギー割合	› 環境マネジメント › 気候変動への対応 › ESGデータ集	
水管理	FB-PF-140a.1	(1)総取水量(2)水の総使用量、ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域におけるそれぞれの割合	› 環境マネジメント › 水資源の持続的利用 › ESGデータ集	
	FB-PF-140a.2	水量および/または水質の許可、標準、規制に関連するコンプライアンス違反の件数	2022年度はコンプライアンス違反はありません	
	FB-PF-140a.3	水管理リスクの説明とリスクを軽減する戦略と実践の議論	› 水資源の持続的利用 2022年度TCFD報告	
食品安全	FB-PF-250a.1	国際食品安全イニシアチブ（GFSI）監査における(1)非適合率、および(2)(a) メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	› 品質への想い	
	FB-PF-250a.2	国際食品安全イニシアチブ（GFSI）に承認された食品安全認証プログラムによって認証されたティア1サプ	開示していません	

		ライヤー施設からの調達原料割合		
	FB-PF-250a.3	(1)受け取った食品安全違反の通知総数、(2)是正した割合	2022年度において食品安全違反通知はありません	
	FB-PF-250a.4	(1)発行されたリコール数および (2)リコールされた食品の合計量	› リスクマネジメント	
健康・栄養	FB-PF-260a.1	健康・栄養の属性を促進するためにラベルづけおよび/または販売された製品からの収益	› 食と健康への貢献	
	FB-PF-260a.2	栄養・健康に対する消費者の懸念に関連する製品と原料を特定、管理するプロセスの議論	› 食と健康への貢献 › 安全・安心	
製品ラベリングとマーケティング	FB-PF-270a.1	(1)子どもに対して行われた広告宣伝の割合、および (2)食事ガイドラインに適合した製品を宣伝する、子どもに対して行われた広告宣伝の割合	開示していません	
	FB-PF-270a.2	(1)遺伝子組み換え生物(GMO)を含む (2)非GMO、とラベルが付いた製品の収益	開示していません	
	FB-PF-270a.3	業界または規制によるラベルおよび/またはマーケティングコードの違反事例数	2022年度において違反事例はありません	
	FB-PF-270a.4	表示および/またはマーケティング慣行に関連する法的手続きの結果としての金銭的損失の総額	開示していません	
パッケージングライフサイクル管理	FB-PF-410a.1	(1)パッケージングの総重量 (2)リサイクルおよび/または再生可能な材料から作られた割合、および (3)リサイクル可能、再利用可能、	› プラスチックの削減・再利用	

		および/または堆肥化可能な割合		
	FB-PF-410a.2	ライフサイクルを通じてパッケージングの環境への影響を減らす戦略の議論	> 環境マネジメント > プラスチックの削減・再利用	
原料サプライチェーンの環境および社会的影響	FB-PF-430a.1	第三者機関の環境基準および/または社会基準に認証されている、調達された食品成分の割合、および基準別の割合	> 持続可能な調達の推進	
	FB-PF-430a.2	サプライヤーの社会的および環境的責任の監査における(1)不適合率および (2)(a)メジャーおよび(b)マイナーな不適合に関連する是正措置率	開示していません	
原料調達	FB-PF-440a.1	ベースライン水ストレスが高いまたは極端に高い地域から調達した食品原料の割合	2022年度TCFD報告	
	FB-PF-440a.2	優先的な食品原料のリストと、環境および社会的配慮による調達リスクの議論	> 持続可能な調達の推進 2022年度TCFD報告	
活動指数	FB-PF-000.A	販売された製品の重量	開示していません	
	FB-PF-000.B	生産施設の数	> 事業所・グループ会社 統合報告書 > 会社情報	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

ESGデータ集

事業活動におけるESG（環境・社会・ガバナンス）データ集は以下よりご覧いただけます。

キユーピーESGデータ集　2022（551KB）

がついている資料をご覧いただくには Adobe Reader が必要です。

ESGデータ 一覧

環境

更新日：2023年5月30日

環境関連投資

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
環境保全コスト（投資）	百万円	170*	233*	177*	172*	404	キユーピー単体
環境保全コスト（費用）	百万円	553*	632*	622*	611*	682	キユーピー単体
環境保全対策に伴う経済効果	百万円	691*	545*	591*	716*	659	キユーピーグループ 国内生産工場

環境マネジメント

	単位	2022年度	備考
第三者認証（ISO14001）	-	24事業所/71事業所	キユーピーグループ 国内生産工場
環境関連法規制違反件数	件	0	キユーピーグループ 国内生産工場

資源の有効活用

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
廃棄物排出量	総量	千トン	60.5	50.8	45.9	41.6	39.8	キユーピーグループ 国内生産工場
	原単位	kg/ 生産数量トン	70.6	62.8	59.4	54.0	52.4	
廃棄物等総排出量		千トン	82.8	72.4	69.2	66.4	65.1	キユーピーグループ 国内生産工場
廃棄物最終処分量（単純埋立）		千トン	4.2	2.4	2.0	1.7	1.6	キユーピーグループ 国内生産工場
再資源化率		%	95.0	97.0	97.0	97.4	97.5	キユーピーグループ 国内生産工場

持続可能な調達

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
持続可能なパーム油の調達	認証油への切り替え率	%	-	37	60	95	100	RSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了し、あわせてマスバランスの切り替えに取り組み中

生物多様性

生物多様性保護政策の有無	有：キユーピーグループ 生物多様性方針(2022年12月策定)
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護地域内部、もしくは保護地域に隣接している場所の有無	無

水資源の持続的利用

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
水使用量	国内	千m^3	9,322	8,508	8,301	8,091	8,075	キユーピーグループ 国内生産工場
	原単位	m^3/ 生産数量トン	10.9	10.5	10.8	10.5	10.6	キユーピーグループ 国内生産工場
	海外	千m^3	711	624	815	451	675	キユーピー 海外生産工場 ※10月から翌年9月の実績を集計
排水量	国内	千m^3	7,246	6,708	6,358	6,384	6,110	キユーピーグループ 国内生産工場
	海外	千m^3	689	488	594	260	167	キユーピー 海外生産工場 ※10月から翌年9月の実績を集計

商品やサービスにおける環境配慮

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
商品やサービスにおける取り組み	件	-	3	5	4	14	2019年度より集計開始 ニュースリリース発信件数

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（12月から翌年11月）を対象とする。
「*」マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

ESGデータ 一覧

環境

更新日：2023年5月30日

CO_2排出削減									
			単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
CO_2排出量	国内	Scope 1	千トン-CO_2	78.5	68.4	65.5	64.5	63.6	キユーピーグループ 生産工場・オフィス
		Scope 2	千トン-CO_2	125.1	106.5	100.3	97.5	93.6	
		Scope 1+2	千トン-CO_2	203.6	174.9	165.8	162.0	157.2	
		原単位	Kg-CO_2／ 生産数量トン	232.9	211.5	210.2	205.2	206.7	
	海外	Scope 1	千トン-CO_2	12.7	12.9	14.1	1.3	7月開示予定	キユーピーグループ 生産工場
		Scope 2	千トン-CO_2	30.9	31.7	32.3	29.6	7月開示予定	
		Scope 1+2	千トン-CO_2	43.6	44.6	46.4	30.9	7月開示予定	
		原単位	Kg-CO_2／ 生産数量トン	252.1	236.3	241.5	167.6	7月開示予定	
	国内	Scope 3 合計	千トン-CO_2	-	392.7	314.3	293.9	7月開示予定	キユーピー単体
		1. 購入した製品・サービス	千トン-CO_2	-	234.4	215.4	167.8	7月開示予定	
		2. 資本財	千トン-CO_2	-	28.1	20.3	22.4	7月開示予定	
		3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	千トン-CO_2	-	6.0	4.4	8.1	7月開示予定	
		4. 輸送、配送（上流）	千トン-CO_2	-	40.8	37.8	33.4	7月開示予定	
		5. 事業活動から出る廃棄物	千トン-CO_2	-	2.6	2.3	0.5	7月開示予定	
		6. 出張	千トン-CO_2	-	0.3	0.3	0.3	7月開示予定	
		7. 雇用者の通勤	千トン-CO_2	-	1.2	1.1	1.1	7月開示予定	
		8. リース資産（上流）	千トン-CO_2	-	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
		9. 輸送、配送（下流）	千トン-CO_2	-	4.0	4.2	9.9	7月開示予定	
		10. 販売した製品の加工	千トン-CO_2	-	2.6	1.7	0.0	7月開示予定	
		11. 販売した製品の使用	千トン-CO_2	-	8.8	9.8	1.8	7月開示予定	
		12. 販売した製品の廃棄	千トン-CO_2	-	17.2	16.8	14.0	7月開示予定	
		13. リース資産（下流）	千トン-CO_2	-	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
		14. フランチャイズ	千トン-CO_2	-	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
		15. 投資	千トン-CO_2	-	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
電力購入量		国内	Mwh	251,998	228,618	226,292	221,861	219,987	キユーピーグループ 生産工場・オフィス
		海外	Mwh	38,712	40,662	40,342	33,668	31,404	キユーピーグループ 生産工場
再生可能エネルギー量		国内	Mwh	4,439*	4,361*	4,155*	4,461*	4,749	キユーピーグループ 生産工場・オフィス
		海外	Mwh	1,078	1,362	2,362	2,668	3,539	キユーピーグループ 生産工場
NOx排出量		国内	トン	53.0*	43.0*	40.9*	39.8*	38.5	キユーピーグループ 生産工場
SOx排出量		国内	トン	9.4	8.9	8.5	8.3	8.1	キユーピーグループ 生産工場

環境データは、特に記載のない限りキユーピー株式会社および連結子会社を対象とし、実績はキユーピー年度（12月から翌年11月）を対象とする。
「*」マークは、算定定義見直しなどによりデータの一部を修正しています。

ESGデータ 一覧

環境

更新日：2023年5月30日

Scope3の算定方法

カテゴリ	算出方法	対象排出原単位等
1. 購入した製品・サービス	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量
2. 資本財	投資金額あたり原単位	設備投資額
3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	CFP－DB、 SC－DB	エネルギー種別の使用量
4. 輸送、配送（上流）	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量
5.事業活動から出る廃棄物	重量あたり原単位	排出物重量
6. 出張	従業員数あたり原単位	従業員数
7. 雇用者の通勤	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数
8. リース資産（上流）	Scope1,2に算入済	Scope1,2に算入済
9. 輸送、配送（下流）	輸送時の排出原単位	出荷重量、製品輸送はシナリオ
10. 販売した製品の加工	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
11. 販売した製品の使用	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
12. 販売した製品の廃棄	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量
13. リース資産（下流）	該当なし	該当なし
14. フランチャイズ	該当なし	該当なし
15. 投資	該当なし	該当なし

ESGデータ 一覧

社会

更新日：2023年5月30日

人材

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
グループ従業員数		人	24,651	24,856	25,271	15,885	15,785	キユーピーグループ ※2021年度より「キユーソー物流システム」は持分法適用関連会社へ移行
常時雇用者数	合計	人	14,808	15,452	16,003	10,719	10,696	キユーピーグループ
	男	人	9,249	9,549	9,838	5,348	5,280	
	女	人	5,559	5,903	6,165	5,371	5,416	
平均臨時雇用者数		人	9,843	9,404	9,268	5,166	5,089	キユーピーグループ
常時雇用者数	合計	人	2,508	2,447	2,426	2,394	2,408	キユーピー単体
	男	人	1,382	1,335	1,308	1,296	1,271	
	女	人	1,126	1,112	1,118	1,098	1,137	
平均臨時雇用者数	合計	人	774	738	569	537	538	キユーピー単体
	男	人	243	233	179	169	176	
	女	人	531	505	390	368	362	
従業員数	合計	人	3,282	3,185	2,995	2,931	2,946	キユーピー単体社員
平均勤続年数	男女平均	年	14.7	15.1	15.3	16.0	16.2	キユーピー単体社員
	男	年	17.5	17.8	18.0	18.6	18.8	
	女	年	11.3	11.9	12.2	13.0	13.4	
平均年齢	男女平均	年	39.8	40.3	40.5	41.2	41.6	キユーピー社員
	男	歳	43	43.3	43.3	43.9	44.3	
	女	歳	35.9	36.6	37.1	38.0	38.6	
離職率（新卒者の3年未満の離職率）		%	7.0	7.3	20.4	10.2	6.0	キユーピー単体新卒総合職のみ
新入社員数	合計	人	49	50	53	24	24	キユーピー籍新卒総合職のみ
	男	人	28	24	35	13	14	
	女	人	21	26	18	11	10	
女性役員比率		%	12.5	13.3	18.8	21.4	28.6	キユーピー単体 社外役員、社外監査役、監査役含む
女性管理職比率		%（%）	8.2（7.1）	9.2（7.9）	10.2（8.5）	10.9（9.1）	12.5（10.0）	キユーピー単体 （）内は国内食品事業全体
女性リーダー		人（人）	52（98）	59（111）	65（121）	72（132）	82（145）	上記比率の管理職人数 （）内は国内食品事業全体
社員研修費用		百万円	210	211	189	172	144	キユーピーグループ従業員含む 人材育成センターで行われた研修費等
人権研修参加者		人	8,354	9,010	7,964	14,463	14,793	※研修の名目のためアンケート数は除く
障がい者雇用率		%	3.54	3.60	3.67	3.76	3.73	国内食品事業全体 ※2022年12月1日現在
定年再雇用希望者		人	0	25	25	27	36	キユーピー籍社員 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 2017年度の2名は60歳時点で定年退職を選択しシニア社員を希望した社員
定年再雇用率		%（%）	-	83（100）	78（100）	73（100）	86（100）	キユーピー籍社員 （）内は希望者の再雇用率 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 希望者以外の定年退職無し

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキユーピー株式会社を対象とする。

ESGデータ 一覧

社会

更新日：2023年5月30日

労働

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
平均残業時間（従業員一人当たり）		時間／月	18.7 (25.1)	20.5 (26.2)	16.1 (18.9)	16.6 (18.7)	16.2 (18.7)	キユーピー単体一般職のみ （）内は国内食品事業一般職のみ
年次有給休暇取得日数		日	10.2 (9.0)	13.4 (11.0)	11.1 (9.5)	12.2 (10.6)	14.1 (11.9)	キユーピー単体 （）内は国内食品事業社員のみ ※平均取得日数を記載
育児休業取得者	合計	人	185	200	221	223	188	キユーピー単体 社員
	女	人	135	143	151	150	122	
	男	人	50	57	70	73	66	
育児短時間勤務者	合計	人	153	165	187	195	192	キユーピー単体 社員
	女	人	153	165	187	194	192	
	男	人	0	0	0	1	0	
育児休業復職率		%	100	100	100	100	100	キユーピー単体
介護休暇利用者		人	49	48	78	87	118	キユーピーグループ
介護休業利用者		人	22	15	13	11	12	キユーピーグループ
ボランティア休暇取得者		人	1	7	0	1	0	キユーピー単体
休業災害件数		件	24	13	12	17	9	キユーピーグループ国内73事業所 ※2023年4月30日集計
休業災害度数率		%	0.99	0.62	0.60	0.90	0.46	キユーピーグループ国内73事業所 ※度数率＝労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000 ※2023年4月30日集計
休業災害強度率		%	0.034	0.038	0.020	0.031	0.027	キユーピーグループ国内73事業所 ※強度率＝労働損失日数/延べ実労働時間×1,000 ※2023年4月30日集計

社会

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
食育関係（マヨネーズ教室）開催数	回	308	315	62	39	56	オンライン含む
食育関係（マヨネーズ教室）参加者数	人	14,203	14,125	2,938	1,972	4,588	オンライン含む
講演会開催数	回	154	179	56	58	99	
講演会参加者数	人	9,025	8,315	3,000	2,013	4,013	
工場見学・見学施設来場者数	人	99,634	88,147	21,016	24,857	25,417	五霞・富士吉田（2020年まで）・挙母・鳥栖 ・神戸（2015.・2016は伊丹） ・マヨテラス・中河原・泉佐野・階上 オンライン含む
QPeace支援団体数	団体	15	14	12	10	11	
QPeace支援総額	万円	623	652	650	649	667	キユーピー・階上キユーピー・富士吉田キユーピー（2022年11月まで）・鳥栖キユーピー・デリア食品・イシガデリカ・キタカミデリカ・旬菜デリ・セトデリカ・ハンシンデリカ・トスデリカ・ケイシステム・三美食品販売・ディスペンパックジャパン・キユーピー精農・キユーピータマゴ・サラダクラブ・中島薬商店・トウリュウシーンズ・トウキユーピー・トウアドキユーピー・ｎａｔｏ・蔵元・ケイパック・コープ食品・グリーンメッセージ
キユーピーみらいたまご財団助成団体数	団体	26	70	132	102	131	
キユーピーみらいたまご財団助成総額	万円	1,247	2,651	3,981	3,800	4,052	

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキユーピー株式会社を対象とする。

ESGデータ 一覧

ガバナンス

更新日：2023年5月30日

取締役会の独立性

			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	9	9	6	6	7	2023年2月22日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		9	9	6	6	7	
	独立社外取締役	男性		1	1	2	1	1	
		女性		1	1	1	2	2	
		合計		2	2	3	3	3	
	合計			11	11	9	9	10	
独立社外取締役比率			%	18.2	18.2	33.3	33.3	30.0	
開催回数			回	12	11	12	12	2024年2月 開示予定	

監査役会

			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2	2	2023年2月22日現在
		女性		0	0	0	0	0	
		合計		2	2	2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	1	1	1	2	
		女性		1	2	2	2	1	
		合計		2	3	3	3	3	
	合計			4	5	5	5	5	
開催回数			回	12	12	13	13	2024年2月 開示予定	

ESGデータ 一覧

ガバナンス

更新日：2023年5月30日

指名・報酬委員会

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
指名・報酬委員会	人	6	6	7	7	7	2023年2月22日現在
社内取締役		3	3	3	3	3	
社外取締役・監査役		2	2	4	4	4	

役員報酬

		2023年度				備考
		支給人数（人）	支給額（百万円）	賞与（百万円）	総支給額（百万円）	
取締役	取締役（社外取締役を除く）	7	162	73	235	2023年2月22日現在
	社外取締役	4	37	-	37	
	合計	11	199	73	273	
監査役	監査役（社外監査役を除く）	3	42	-	42	
	社外監査役	3	30	-	30	
	合計	6	73	-	73	
合計		17	272	73	346	

株主権

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
買収防衛策の有無	-	有	有	有	有	有	

株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	2	2	2024年2月開示予定	

コンプライアンス

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
ヘルプライン（内部通報制度）への通報・相談件数	件	28	38	20	28	2024年2月開示予定	
全従業員の意識調査アンケート回答率	%	-	89.3	-	84.5	-	2年おきに実施

支払法人税額

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	備考
連結会計総額	百万円	10,203	8,664	8,329	6,774	2024年2月開示予定	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

各種方針

グループ規範（倫理規範・行動規範）

キユーピーグループ 経営の基本方針

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

サステナビリティに関連する方針（基本原則・ガイドライン・宣言含む）		サステナビリティ重点課題					
		食と健康	資源の有効活用	気候変動	生物多様性	持続可能な調達	人権の尊重
環境	キユーピーグループ 環境方針		●	●		●	
	容器包装選定の基本方針（123KB）		●	●	●	●	
	生物多様性方針		●	●	●	●	
調達	持続可能な調達のための基本方針		●		●	●	●
	キユーピーグループのサプライヤーガイドライン				●	●	●
	キユーピーグループ グリーン購入基本原則（760KB）		●			●	
人権	キユーピーグループ人権方針（361KB）						●
安全・安心	キユーピーグループ ユニバーサルデザイン原則	●					
ガバナンス	キユーピーグループ 反贈賄基本方針					●	
	キユーピーグループ プライバシーポリシー					●	
宣言	消費者志向自主宣言	●					
	キユーピーグループ 健康宣言	●					

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

イニシアチブ・加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加　加盟団体

イニシアチブへの賛同・参加

TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）

キユーピーグループは「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）」に2021年から賛同し、あわせて「TCFDコンソーシアム」に参画しています。
TCFDは、G20からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）が2015年に設立したタスクフォースです。これに賛同する企業や金融機関等が連携する場がTCFDコンソーシアムです。

› TCFD
› TCFD コンソーシアム

RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）

キユーピーグループは「RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）」に2018年から加盟しています。
RSPOは、世界的に信頼される認証基準の策定と、ステークホルダー（利害関係者）の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的として、WWFを含む7つの関係団体が中心となり2004年に設立した非営利団体です。

› RSPO

環境省ウォータープロジェクト

キユーピーは「環境省ウォータープロジェクト」に2022年から参加しています。
環境省ウォータープロジェクトは、2014年に「水循環基本法」に基づき発足した、健全な水循環の維持または回復を目的とした取り組みの促進等を推進する官民連携プロジェクトです。

› 環境省ウォータープロジェクト

CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）

キユーピーは「CLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）」に2020年から参加しています。
CLOMAは、地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向けて、プラスチック製品のより持続可能な使用並びにプラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の開発及び導入普及を図り、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めてイノベーションを加速するため2019年1月に設立されたプラットフォームです。

› CLOMA

あふの環2030プロジェクト ～食と農林水産業のサステナビリティを考える～

キユーピーは「あふの環2030プロジェクト」に2020年から参加しています。
「あふの環2030プロジェクト」は、2030年のSDGs達成をめざし、今だけでなく次の世代も豊かに暮らせる未来を創るべく農林水産省が立ち上げたプロジェクトです。

› あふの環プロジェクト

JaSPON（持続可能なパーム油のためのネットワーク）

キユーピーグループは「JaSPON（持続可能なパーム油のためのネットワーク）」に2019年から加盟しています。
JaSPONは、パーム油生産における社会や環境面のさまざまな問題を解決することをめざし、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させる目的で小売、消費財メーカー、NGOなどによって設立されたネットワークです。

› JaSPON

GPN（グリーン購入ネットワーク）

キユーピーは「GPN（グリーン購入ネットワーク）」に1996年から加盟しています。
GPNは、環境負荷の小さい製品やサービスの市場形成を促し、持続可能な社会経済の構築に寄与するため、グリーン購入活動を促進し、グリーン購入に関する普及啓発や情報提供、調査研究などを行っているネットワークです。

› GPN

食環境戦略イニシアチブ（健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ）

キユーピーは「食環境戦略イニシアチブ（健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ）」に2021年3月から参画しています。
食環境戦略イニシアチブは、厚生労働省が立ち上げ、産学官などの連携による推進体制により、食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、経済格差に伴う栄養格差などを重大な社会課題と捉え、活力ある持続可能な社会の実現をめざしています。

› 食環境戦略イニシアチブ

› 食環境戦略イニシアチブにおけるキユーピーの公開目標

加盟団体

協会・団体名	役職
一般財団法人 食品産業センター	副会長
食品産業中央協議会	監事
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会	会長
全国ドレッシング類公正取引協議会	会長
公益社団法人 日本缶詰びん詰レトルト食品協会	副会長
日本介護食品協議会	会長

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

社会・環境活動の歴史

対象：キユーピーおよびグループ各社
本年表は、当時の活動内容を掲載しています

西暦	社会活動	環境活動
2023年 ※5月末時点	全国47都道府県「ご当地ペイザンヌサラダ」の取り組みを始動	2022年度TCFD報告書を開示
	「サステナブルな食」の新ブランド「GREEN KEWPIE」を発表	キユーピーマレーシアで太陽光発電を開始
		Italiante バジルソースボトルタイプの賞味期間延長
		キユーピー（五霞工場、中河原工場、泉佐野工場、神戸工場）とケイパックで食品残さによるバイオマス発電を実現
		「ヴェルデ トーストスプレッド」シリーズ環境配慮型容器の切り替えによりプラスチック使用量を約10.9％削減
2022年	キユーピーグループ サステナビリティ基本方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標を見直し	
	キユーピーグループ4社（サラダクラブ・キユーピータマゴ・デリア食品・キユーピー醸造）の公式サイト内に「サステナビリティページ」を新設	
	キユーピーグループ サステナビリティ基本方針を改訂	
	サステナビリティに向けた重点課題、サステナビリティ目標に生物多様性の保全を追加	
	「健康経営優良法人2022」認定	TCFDフレームワークに基づく情報を開示
	JST共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)「共創分野（本格型）」に採択（アレルギー低減卵）	野菜廃棄物ゼロ化全7工場で完了（サラダクラブ中河原工場・伊丹工場・鳥栖工場）
	ABC Cooking Studio×キユーピー【サラダとタマゴの食と健康キッチン】共同プロジェクト	ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ 容器薄肉化によりプラスチック使用量を約9.3％削減
	キユーピーが第6回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門【企業の部】において、農林水産大臣賞を受賞	キユーピー３分クッキング 野菜をたべよう！スープの素シリーズ3品を年月表示
	野菜の魅力を体験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業	「アヲハタ まるごと果実」シリーズ瓶軽量化
	オンラインと出前事業でSDGs教室を開始	サラダクラブ パッケージサラダトレー約10％軽量化によるプラスチック使用

		量削減
	キユーピー、デリア食品、ポテトデリカが第72回大会日本食品保蔵科学会 産業技術功労賞を受賞（冷圧フレッシュ製法®）	サラダクラブ 加熱用カット野菜「炒めるキャベツ」鮮度保持延長技術により業界最長消費期限を実現
	日本食品工学会第23回年次大会 技術賞を受賞冷圧フレッシュ製法®）	サラダクラブ パッケージサラダフィルム規格変更（寸法の縮小化・薄肉化）によるプラスチック使用量削減
	2020日本パッケージングコンテスト 包装部門賞 食品包装部門賞を受賞（キユーピー 平飼い卵マヨネーズ）	渋谷本社および仙川キユーポート使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替え
	2020日本パッケージングコンテスト 包装技術賞 アクセシブルデザイン包装賞を受賞（レンジでチンするハッピーレシピ）	キユーピー神戸工場にオンサイトPPAモデルの太陽光パネル設置
	2020日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞 公益社団法人日本包装技術協会会長賞を受賞（ヴェルデ ピーナッツホイップ、チョコホイップ）	キユーピー ベビーおやつ「野菜入りソフト おせんべい」の包材変更によりプラスチック使用量を約35%削減
	2022年度グッドデザイン賞を受賞（「ＨＯＢＯＴＡＭＡ」シリーズ）	サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞を受賞（卵の有効活用動画）
		プラントベースフード「ＨＯＢＯＴＡＭＡ（ほぼたま）」の市販用発売
		サラダクラブ「カットレタス」増量企画により産地廃棄（フードロス）削減支援を実施
		「あえるパスタソース」シリーズ「年月」表示へ 切り替え、包材のスリム化によりプラスチック使用量を約7%削減
		キユーピー「やさしい献立」シリーズ 31品 賞味期間延長
		サラダクラブ 素材パウチシリーズ全ての包材・インキを植物由来のバイオマスパウチおよびバイオマスインキへ切り替え完了
		パーム油においてRSPOブックアンドクレーム方式への切り替えを完了し、マスバランスの切り替えを開始
2021年	サステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標を見直し	
	オンライン離乳食教室をキユーピー鳥栖工場で開始	キユーピー広州工場オール電化設備を導入
	共同研究講座「キユーピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所」を開設	キユーピー ベビーおやつ「たまごたっぷりぼうろ」パッケージのプラスチック使用量を約25%削減
	「健康応援BOOK」を公開	野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了（サラダクラブ五霞工場）

	アヲハタ4期連続で「子育てサポート企業」に認定	キユーピー テイスティドレッシング全品に再生プラスチックを含む容器を採用
	キユーピー食育活動「マヨネーズ教室」「食をテーマにした講演会」を対面とオンラインのハイブリッド化 開始	TCFD提言への賛同を表明 TCFDコンソーシアムへ参画
	キユーピーグループ人権方針を策定	サラダクラブ サステナビリティページを開設
	未来を創る子どもたちの生きる力を育む、楽しく学んで試せるサイト「食生活アカデミー」を開設	
	子どもが野菜をおいしく、楽しく食べられるように応援するサイト「子どもと野菜をたのしもう」を開設	
	各世代で意識したい食生活のポイントとおすすめレシピを紹介するサイト「みんなの食と健康応援」を開設	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部（旧CSR部）を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会（旧CSR委員会）を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	
	健康経営優良法人2020（ホワイト500）3年連続認定	旬菜デリ 昭島事業所で太陽光発電設備導入
	AIを活用した原料検査装置でキユーピーが第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了 （サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場）
	東京農業大学内にキユーピー「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキユーピーとキユーピータマゴが受賞 （卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献）
	キユーピーが知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	再生プラスチックを「キユーピー ドレッシング スティックタイプ」の外装に採用
	「がん予防サービス」の展開を視野に東京家政大学とマイクロRNAの測定装置を共同研究開始	「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ12品に植物由来のプラスチックを採用 全品の賞味期間延長と年月表示
	令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業　ロボットフレンドリーな環境構築支援事業 （惣菜の盛り付け作業のロボット化をパートナー企業と共に、低価格で実現することを目指しての参画）に採択	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	松本市・松本大学と共同研究の成果を発表 健康的な食生活提案	CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) に加盟
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	

	NEDOが公募する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」の「説明できるAIの基盤技術開発」（研究開発項目〔1〕：「人と共に進化するAIシステムの基盤技術開発」の一つ）に採択	
	キユーピーが令和2年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択 (低価格・高精度・高速な食品原料外観・内部AI検査装置の研究開発)	
	初のオンライン社会科見学をキユーピー挙母工場・キユーピー神戸工場で実施	
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019（ホワイト500）2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了 (サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室（出前出張）累計参加人数10万人達成	「キユーピードレッシング　ステッィクタイプ」の外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キユーピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10ヵ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キユーピー、サンスター、日本パレットレンタルに3者によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送（関西・九州間）を開始
	山形県と包括連携協定を締結（地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進）	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキユーピーとグリーンメッセージが受賞 （野菜の未利用部を活用した資源循環の推進）
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいてで、キユーピーが「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰　農林水産大臣賞をキユーピーとキユーピータマゴが受賞 （卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦）
	ディープラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキユーピーが、「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題」を策定	
	健康経営優良法人2018（ホワイト500）認定	キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定
	プラチナくるみん認定	キユーピーで初めて「年月表示」を開始 （市販用介護食「やさしい献立」シリーズレトルトパウチ）
	広島市と包括連携協定を締結（地産地消や食育、健康増進の取り組みなどを推進）	キユーピードレッシングのガラス瓶容器をプラスチックボトル化（原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20％削減）
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト実行委員会設立（愛知県民の野菜摂取量	キユーピータイランドで太陽光発電施設導入

	増加を応援）	
		キユーピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始
		平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰をキユーピーとグリーンメッセージが内閣総理大臣賞を受賞 （野菜の未利用部を活用した資源循環の推進）
		平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰　国土交通大臣表彰を受賞
		RSPO※に加盟 （※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会）
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置　環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	キユーピー神戸工場でオープンキッチン（工場見学）を開始	グリーンファクトリーセンターに太陽光発電設備増設
2016年	一般財団法人 キユーピーみらいたまご財団設立（2019年4月に公益財団法人に移行）	キユーピー富士吉田工場　平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰 「事業所　最優秀賞」を受賞 ※2021年譲渡
	第1回 地域の居場所づくりサミット開催（一般財団法人 キユーピーみらいたまご財団）	工場で発生する野菜残さで染めたエプロン（FOOD TEXTILE）をマヨネーズ教室で採用
		野菜残さのサイレージ化を開始（グリーンメッセージ）
	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結	キユーピー マヨネーズ（一部容量）とキユーピーハーフの賞味期間を延長（食品ロス削減）
		「キユーピーの森」第三期活動開始
		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキユーピー神戸工場の操業開始
2015年		遠州デリカ※、五霞工場に太陽光発電設備導入 ※ 現サラダクラブ遠州工場
	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送（500km以上）のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ（一部商品）消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター、キユーピー富士吉田工場（※2021年譲渡）に太陽光発電設備導入

2014年	仙川キユーポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キユーソー流通システム所沢物流センター、キユーピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入
		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトピール（主にじゃがいもの皮と芽）の飼料化開始（養豚用）
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キユーソー流通システム、キユーピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞
	ダンスコンクールの協賛開始	キユーソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアヲハタとの包括的連携に関する協定」を締結	「キユーピーの森」第二期活動開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行（年1冊ずつ2016年まで実施）	
	アヲハタ　ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	
	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キッザニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2008年	マッチングギフト制度「Ｑｐｅａｃｅ」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞（ブログ部門）受賞	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キユーピー富士吉田工場でISO14001の認証取得 ※2021年譲渡
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キユーピーの森」を山梨県富士吉田市で開

		始
2006年	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加
	「社会・環境報告書」の発行を開始（社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行）	
2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	
	「環境・社会報告書」の発行を開始（「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加）	
		中河原工場でISO14001の認証取得
2004年	キユーピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰（主催：財団法人消費者教育支援センター）の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2003年		キユーピー全工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2002年	マヨネーズ教室を開始	キユーピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学（現 東京海洋大学）大学院に「ヘルスフード科学（中島董一郎記念）寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
		グループ環境マネジメントマニュアルを制定
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定（部門ごとの目標を設定し活動）
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会（委員長：環境担当役員）を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売（商品名「卵醤」） ※現在は販売しておりません
1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点

		検システムを確立
1992年		容器減量化を推進（ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など）
1991年		環境問題検討委員会を設置（委員長：生産本部長）
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売（膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」）
1980年	那覇ママさんコーラスまつり」（現「全沖縄おかあさんコーラス大会」）の協賛開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」（現「全日本おかあさんコーラス大会」）の協賛開始	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キユーピーニュース」発行	
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入（1975年に全工場に整備）
1969年		卵殻の破砕・乾燥設備を導入（旧仙川工場）
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1962年	「キユーピー３分クッキング」放映開始	
1961年	オープンキッチン（工場見学）を開始	
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

サステナビリティ

- サステナビリティトップ
- トップメッセージ
- サステナビリティマネジメント
- 食と健康への貢献
- 地球環境への貢献
- 持続可能な調達
- 人権の尊重
- ガバナンス
- 安全・安心
- 開示方針
- 各種報告書
- 対照表
- ESGデータ集
- 各種方針
- イニシアチブ・加盟団体
- 社会・環境活動の歴史
- キユーピーグループオフィシャルブログ
- グループ各社のサステナビリティ活動

グループ各社のサステナビリティ活動

株式会社サラダクラブ

キユーピーと三菱商事が設立したパッケージサラダの製造・販売をしている会社です。

株式会社サラダクラブ サステナビリティ

キユーピータマゴ株式会社

液卵・乾燥卵などの加工食品の原料から、茹卵・たまごサラダ・厚焼たまご・オムレツなどの商品を製造・販売している会社です。

キユーピータマゴ株式会社 サステナビリティ

デリア食品株式会社

サラダ・惣菜、米飯、麺類、漬物、コミュニケーションフードの製造及び販売をしている会社です。

デリア食品株式会社　サステナビリティ

キユーピー醸造株式会社

醸造酢、穀物酢、果実酢の製造販売。漬物、惣菜向け調味酢、調味液の製造販売。食品添加物（品質保持用）などの製造販売をしている会社です。

キユーピー醸造株式会社 サステナビリティ